

国立国語研究所学術情報リポジトリ

基礎篇第十八課 よみせを みに いきたいです：
意志・希望の表現

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002797

基礎篇第十八課

よみせを みに いきたいです

——意志・希望の表現——

国立国語研究所

前 書 き

国立国語研究所では、昭和49年度以来、日本語教育教材開発事業の一環として日本語教育映画基礎篇を作成してきた。これは、従来、文化庁において進められていた映画教材作成の事業を新たな形で引き継いだものである。

日本語教育映画基礎篇は、各課およそ5分の映画にそれぞれ完結した主題と内容を持たせ、それを教育の必要に応じて使用する補助教材、また、系列的に初級段階の学習事項を順次指導する教材として提供しようとするもので、全30課を昭和58年度までに完成した。

映画の作成にあたっては、原案の作成・検討から概要書の執筆まで、また、実際の制作指導においても、日本語教育映画等企画協議委員の方々に御協力頂いた。ここに厚く御礼申し上げる。

この解説書は、映画教材の作成意図を明らかにし、これを使用して学習し、指導する上での留意点について述べたものである。この解説書がこの映画教材の利用を一層効果あるものにするを願っている。

この第十八課「よみせをみにいきたいです」の解説は、日本語教育センター日本語教育指導普及部日本語教育教材開発室が企画・編集し、執筆にあたったものは、次のとおりである。

本文執筆 田中 望（日本語教育センター日本語教育指導普及部
日本語教育研修室）
資料1., 2. 日向茂男（ ” ”
日本語教育教材開発室）

昭和61年3月

国立国語研究所長
野 元 菊 雄

目 次

1.	はじめに	1
2.	この映画の目的・内容・構成	2
2.1.	目的・内容	2
2.2.	構成——場面を中心として	5
2.2.1.	言語場面, 言語表現についての扱い	5
2.2.2.	言語場面, 言語表現についての解説	5
3.	この映画の学習項目のまとめ	27
3.1.	「意味・内容」と「コミュニケーションの機能」	27
3.2.	文型の機能と日本語教育	32
3.3.	「ほしい」「____たい」の意味・用法と機能	34
3.3.1.	意味・用法	34
3.3.2.	機能	35
3.4.	「ほしがる」「____たがる」の意味・用法と機能	38
3.4.1.	意味・用法	38
3.4.2.	機能	39
3.5.	「つもりだ」の意味・用法と機能	40
3.5.1.	意味・用法	40
3.5.2.	機能	41
3.6.	「～(よ)うと思う」の意味・用法と機能	42
3.7.	「ところだ」の意味・用法と機能	42
3.7.1.	意味・用法	42
3.7.2.	機能	43
3.8.	「ばかりだ」の意味・用法と機能	45
資料1.	使用語彙一覧	49
資料2.	シナリオ全文	75

1. はじめに

この日本語教育映画基礎篇は、初歩の日本語学習期における視聴覚補助教材として企画・制作されたもので、この映画「よみせをみにいきたいです」は、その第十八課にあたるものである。

この映画の企画、概要書（シナリオ執筆のための最終原案）の執筆等に当たったものは、次のとおりである。

昭和54年度日本語教育映画等企画協議会委員（肩書きは当時のもの）

石田 敏子	国際基督教大学専任助手
川瀬 生郎	東京外国語大学附属日本語学校教授
木村 宗男	早稲田大学語学教育研究所教授
窪田 富男	東京外国語大学教授
斎藤 修一	慶応義塾大学国際センター助教授

日本語教育センター関係者（肩書きは当時のもの）

野元 菊雄	日本語教育センター長
武田 祈	// 日本語教育教材開発室長
日向 茂男	// 日本語教材教材開発室研究員
清田 潤	// // 技官

この映画「よみせをみにいきたいです」は、日向茂男の原案に協議委員会で検討を加え、概要書にまとめて制作したものである。制作は、日本シネセル株式会社が担当した。概要書のシナリオ化、つまり脚本の執筆には同社の前田直明氏があたり、また同氏はこの映画の演出も担当した。ただし、演出の際の言語上の問題については、協議会委員及び日本語教育センター関係者の意見が加えられている。

本解説書は、日本語教育センター日本語教育教材開発室が全体企画・編集

を行い、執筆には同センター日本語教育研修室の田中望があたったが、企画・制作段階での意図が十分生きるよう努めた。また、資料1、資料2は日向茂男が担当した。

現在、この映画は、より多くの人の利用の便をはかって下記の九か所において貸し出しを行っている。

- 北海道教育庁指導部社会教育課視聴覚教育係
- 宮城県教育庁社会教育課
- 都立日比谷図書館視聴覚係
- 愛知県教育センター企画管理係
- 京都府教育庁社会教育課
- 大阪府教育庁社会教育課
- 兵庫県教育庁社会教育・文化財課
- 広島県教育庁社会教育課
- 福岡県視聴覚ライブラリー

なお、この映画は、そのビデオ版とともに上記制作会社が販売している。

2. この映画の目的・内容・構成

2.1. 目的・内容

この映画「よみせをみにいきたいです」は、「ほしい」「～(し)たい」「つもりだ」「～(よ)うと思う」などの意志・希望を表す表現の導入を主要目的とした作品である。「__(し)たい」については「__は__が__(し)たい」の形で「は__が__です」の構文の一つとして第8課「どちらがすきですか」で扱っている。ここでは他の意志、希望の表現との意味・用法の上での差異を理解させることが重要である。

意志・希望の表現のほかにこの課で重要なのは「ところだ」「ばかりだ」

などの時やその時点での状態を表す表現である。

上記二種の表現型については、3. の「この映画の学習内容のまとめ」の項でくわしい解説を行う。

この映画の中で、意志・希望の表現としてとりあげられているのは、次の7種である。

- (1) 「(どこかへ行き) たいですね」
- (2) 「(よみせの写真) を(とり) たい……」
- (3) 「……(上野のよみせへ) ……(行く) つもりなんです」
- (4) 「(わたしも行こ) うと思っていました」
- (5) 「……(行き) たがっている……」
- (6) 「(わたしもこんなの) ほしいわ」
- (7) 「(妹がこれ) をほしがってました」

他の文型で機能の面からいえば意志・希望を表すものはたくさんあるが(「機能」については3.2.を参照のこと)、意味・用法の上で意志・希望を表すものはほぼここにそろっている。

なお、(2)の「___を___たい」については、この映画では「(ビールが)飲みたいですね」という「___が___たい」の形がある。助詞の「が」と「を」の交替については3.3.で解説を加える。

時やその時点での状態を表す表現としてこの課で扱うのは、次の4種である。

- (1) 「(いま来た) ばかりです」
- (2) 「(もう少しですくえる) ところでしたね」
- (3) 「(……そこでフィルムをかえている) ところです」
- (4) 「(……フィルムが終わった) ところです」

「ばかり」については、本来の意味である限定を表す「ばかり」と学習者に混同させないように注意が必要である。とくに限定の「ばかり」が名詞に付く場合、

「コーヒーばかり飲んでいる」

はわかりやすいが、用言、とくに動詞に付く場合との区別が重要である。

「この休みは、ほかに何をするでもなく、ただぶらぶらと街を歩きまわったばかりだった」

「コーヒーは飲んだばかりだから、今はいりません」

ここで扱うのは後者の「ばかり」である。また、動詞の辞書形に付く「ばかり」で、限定というより「その時点での状態」を表すと考えたほうがよいものに、

「出かけるばかりのところに客が来てしまった」

「すっかり準備をして、もう出かけるばかりになっている」

などがあるが、ここでは扱っていない。

時を表す「ところ」の用法には、ここで提示されている「___するところ」「___しているところ」「___したところ」の形のほかに「このところ」「今のところ」「あとちょっとのところ」「もう終わるといところ」などの動詞と直接には結び付かない用法があるが、この映画ではとりあげていない。

以上の主要学習項目以外に、この映画で現れる文型のうち注意すべきものとして、

(1) 「(……写真をとりたい) と言っていましたよ」

(2) 「(誘って) みましようよ」

(3) 「(……何) でできているんですかね」

(4) 「(写真は、とり) おわりましたか」

(5) 「(……ビールを飲み) ながら (おすしを食べましようか)」

などがある。このうち、「___してみる」は第13課「おみまいに いきませんか」と第17課「あのいわまで およげますか」で、「___しおわる」は第12課「そうじは してありますか」で、「___しながら」は第17課「あのいわまで およげますか」でそれぞれとりあげられている。これらの文型のくわしい意味・用法などについてはそれぞれの課の解説書を参照されたい。

2.2. 構成——場面を中心として

2.2.1. 言語場面、言語表現についての扱い

この映画での場面や言語表現については、以下の通り扱うことにする。

1. 映画の構成に従って場面を分けるときには、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、……のようにし、それをさらに小場面に分けるとときには、Ⅰ-1、Ⅰ-2、Ⅰ-3、……のようにする。
2. 言語表現については、文単位で①、②……のように通し番号をつける。文を変形引用するときには、'の印をつけ、①'、②'……のようにする。変形引用がふたつ以上あるときには、''、'''……の順で'を重ねていく。
3. この映画のなかに現れていない文や語句を例示するときは、[] 付きの番号をつけ、その変形引用には2.の場合と同様に'の印をつける。

以下の言語表現の扱いについては、文単位の認定に多少問題のあるところもあるかもしれないが、ここではシナリオの句点を基準に認定してある。なお、①②……の文番号は、巻末に資料として付した使用語彙一覧で引用される文やシナリオ全文でのものと共通である。

2.2.2. 言語場面、言語表現についての解説

この映画のテーマは題目「よみせをみにいきたいです」からもわかるようによみせ見物である。「よみせ」がテーマに選ばれたのは、日本の風俗紹介の意味からであるが、外国人学習者にはまず「よみせ」についての簡単な説明しておく必要があろう。

「よみせ」(夜店、夜見世)は、祭りのときなどに夜、道ばたに品物をならべて売る店(光村図書『国語学習辞典』)のことであるが、原則としてその時だけ臨時的に設置される店で、昼間はとりかたづけられるのがふつうである。この映画の舞台となっている上野のよみせとは、東京上野の不忍池のほとりに夏に出るよみせで、本来は不忍池の中の島にある弁天堂のまわりに出ていたよみせが大規模になったものである。よみせはふつう夏祭りのときなどに出るが、上野のよみせはとくに祭りと結び付いてはいないので、7月下旬から8月なかばにかけて長期にわたって出ている。なお、ほかに東京の

よみせとして規模の大きいものでは浅草の三社祭の際に浅草寺境内をうめつくすよみせが有名である。

この映画の構成は、大きく四つの場面からなる。

場面Ⅰ 石井の家で、よみせ見物の相談(①～⑭)

場面Ⅱ 喫茶店での待ち合わせ(⑮～⑳)

場面Ⅲ よみせ見物(㉑～㉔)

場面Ⅳ すしやで、よみせ見物後の食事(㉕～㉘)

それぞれの場面は次のように小区分される。

(場面番号)	(主題)	(文番号)
I-1	よみせ見物の相談	①～⑤
I-2	京子を誘う相談	⑥～⑨
I-3	電話で京子を誘う	⑩～⑬
I-4	香も誘う	⑭～⑲
II-1	京子がやってくる	⑳～㉓
II-2	香がやってくる	㉔～㉗
II-3	香のゆかたについて	㉘～㉚
III-1	金魚すくいの店で	㉛～㉝
III-2	金魚すくいの成果	㉞～㉟
III-3	京子の写真について	㊱～㊲
III-4	やきそば屋	} 言語表現なし
III-5	風鈴屋	
III-6	べっこうあめ屋	
III-7	水中花について	㊳～㊴
III-8	水中花の素材について	㊵～㊷
III-9	ふたたび京子の写真について	㊸～㊹
III-10	休憩の相談	㊺～㊻
IV-1	ビールの注文	㊼～㊽

IV-2	金魚について	88～92
IV-3	ビールで乾杯	93～97
IV-4	まぐろとえびの注文	98～103
IV-5	よみせについて	104～106

以下では、映画の構成にしたがって各小場面ごとに主として言語表現上の問題点を拾いながら説明する。

I 石井の部屋で (①～④)

石井の部屋に友人の田中が来ている。二人はよみせを見に行く相談をし、京子も誘うことにする。なお、バックに流れる音楽は「遠くへ行きたい」である。

I-1 よみせ見物の相談 (①～⑤)

石井と田中は退屈して、どこかへ行く相談をする。

石井「①あーあ、どこかへ行きたいですね。」

田中「②そうだ。

③今夜、よみせを見に行きませんか。」

石井「④どこの？」

田中「⑤上野ですよ。」

①は、この映画の主要学習項目である希望の表現で、ここでは独白として詠嘆的に使われている。この「疑問詞+か+_____たい」の形は、コミュニケーション上の機能としては、要求の表現として使われることがしばしばある。現実のコミュニケーションの場では、むしろそのほうがふつうで、この場面のような詠嘆的用法のほうがまれかもしれない。

〔1〕(子供が父親に)ねえ、どこかに行きたいよう。

〔2〕(夫が妻に)おい、何か飲みたいね。

これらは、それぞれ相手に対して「連れていけ」「飲むものを持って来い」

を要求している。この場面では、友人同士という設定なので、要求的（命令的）用法とは考えられないから、詠嘆的用法と考えられる。

②の「そうだ」は、なにかを思いついたときの間投詞。③「～ませんか」は勧誘の表現。⑬，⑭，⑰を参照のこと。

④「どこの？」は、「どこのよみせ」の意味であるが、学習者によっては、田中の返事⑤「上野ですよ」から考えて、「どこへ？」と混同する者がいるかもしれない。そういう学習者には、

⑤' 「上野のよみせですよ。」

⑤'' 「上野ですよ。」

⑤ 「上野ですよ。」

という分析をして、丁寧な導入をしてやるとよい。

I-2 京子を誘う相談 (⑧~⑨)

石井は京子が上野のよみせの話をしていたのを思い出し、京子を誘うことにする。

石井「⑥あー、京子さんが上野のよみせの話をしていました。」

「⑦よみせの写真をとりたいと言っていましたよ。」

田中「⑧じゃあ、電話して誘ってみましょうよ。」

石井「⑨ええ。」

⑥⑦の「____していた」については、第11課「きょうは あめが ふつています」で扱っているので、くわしくは同課の解説書を参照のこと。この場合の「____ている」の用法は、それぞれの動詞「話をする」「言う」が継続動詞なので、動作の進行中であることを表すといってもよいが、その動作が一回だけであったか、複数あったか、つまり、京子が上野のよみせの話をした、よみせの写真をとりたいと言ったのが一回だけなのか、何回もしたのかは、この映画からだけではわからない。後者の場合は、いわゆる習慣を表す「____ている」の例になるが、その可能性を学習者に納得させるためには、

つぎのような例文を示してやるとよい。

⑦' 京子さんは、会うたびによみせの写真をとりたいと言っていました。
⑦の「言っていた」の「言っている」の部分がこのように「習慣を表す」と解釈することができるために、⑦はつぎのように現在形で表してもおかしくない。

⑦'' よみせの写真をとりたいと言っていますよ。

ただし、⑥は「あー」があることもあって、過去の出来事の想起の意味合いが強いから、現在形で表すのは無理であろう。なお、外国人学習者は、しばしば母語の干渉によって、

⑥' 京子さんが上野のよみせの話をしました。

のような誤用を犯すことがある。その場合には、

[3] ああ、思い出したよ。そういえば、この前会ったときに、彼女は上野のよみせの話をしていたよ。

[4] A そのとき彼女は何をしましたか。

B ああ、彼女は上野のよみせの話をしました。

のような例を出して、過去の出来事を、ある時点での状態として生き々きと想起するときには「____ていた」を用い、過去の出来事を靜的に描写するときには「____た」を用いると説明するとよいであろう。

⑦の「よみせの写真をとりたい」は、「____たい」の文型で、助詞「を」をとる場合の例。ここでの主要学習項目なので、3.3.で詳述する。

⑦の「____と言う」の「と」は、いわゆる引用の「と」であるが、外国人学習者の中には、

⑦''' よみせの写真をとりたいですと言っていましたよ。

のように、「____と言う」の前に丁寧体を使ってしまうことが多い。場合によって、丁寧体を使うことがないとはいえないが、外国人学習者には「____と言う」「____と思う」などの引用の「と」の前は普通体になると指導したほうがよいであろう。

⑧の「……誘ってみましょうよ」の「____してみる」は、「____することを

試みる」の意味。続く「～ましょう」は、話し手が自分の意志をもとに相手を積極的に勧誘する言い方で、提案・相談のニュアンスを含む「～ませんか」とは用法が異なる。ここでは、「～ましょうよ」と「よ」が伴うことで、相手の都合におかまいなく自分の意向を強く出す表現になっている。「～ましょう」については、⑮、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓も参照のこと。

I-3 電話で京子を誘う (⑩～⑯)

石井はそこで京子に電話をかける。

石井「⑩あー、京子さん。

⑪今夜、上野のよみせへ田中さんと行くつもりなんですが……。」

京子「⑫まあ、わたしも、行こうと思っていました。」

石井「⑬じゃあ、いっしょに行きませんか。」

京子「⑭ええ、ぜひ、いっしょに行きたいです。」

石井「⑮五時に、いつもの喫茶店で会いましょう。」

京子「⑯ええ。」

⑩の「……行くつもり」は意図、予定を表す表現で、3.5.で解説するが、ここでは勧誘の機能をもって使われている。

⑪の「～なんですが……」の「なんです」については、第13課「おみまいに いきませんか」に説明がある。「が……」の形で後を省略する表現は、日本語の一つの特徴と考えられるが、とくに後に、命令、要求、勧誘などの相手への働きかけの強い表現が来る場合には省略される方がむしろふつうである。一種の会話全体の雰囲気をもたらしやすくする手段と考えられるが、外国人学習者にはなかなか使えない形なので、よく練習をさせる必要がある。

⑫の「まあ」は、女性がよく使う軽い驚ろきを表す間投詞。なお、第16課「みずらみのえを かいいたことが ありますか」も参照のこと。

⑬の「行こうと思っていました」は、動詞の意志形に「と思う」が付いた形で、話し手の意志を表すが、この形と「つもりだ」との違いについては、

3.6. で扱う。⑬「～行きませんか」は、③と同じく勧誘の表現。

⑭の「ぜひ」は、「行きたい」を強めるための副詞で、この種の副詞としてはほかに、「ぜひとも」「どうしても」などがある。なお、これについては、Ⅱ-3の④も参照のこと。

⑮の「いつもの喫茶店」は、「いつも行く喫茶店」「いつも待ち合わせをする喫茶店」の意味だが、このような「の」の使い方の例としては「きのうの話」「去年の旅行」などを出して、学習者に確認しておくといよい。⑯「会いましょう」は、⑧と同じく自分の意向をもとに相手を勧誘する表現。

なお、電話での話し方については、第13課「おみまいに いきませんか」で取り上げているので、同課の映画解説書を参照されたい。

I-4 香も誘う (⑰～⑳)

京子は、香もよみせに興味を持っていることを思い出し、誘ってみることにする。

石井「⑰だれかほかに、行きたがっている人、いませんか。」

京子「⑱そうですね。」

⑲「そうだ、香さんが、よみせを見たがってましたよ。」

石井「⑳そうですか。」

京子「㉑ええ。」

石井「㉒香さんも、誘ってみてください。」

京子「㉓ええ。」

㉔「じゃ、五時に。」

⑰の「行きたがっている」、⑱の「香さんが、よみせを見たがってましたよ」の「____たがる」は、第三者の希望している状態を描写する表現で、この課の主要学習項目なので、3.4. で説明を加える。

㉔の「じゃ、五時に」は、「五時にいつもの喫茶店で会いましょう」の後半を省略した表現と考えられるが、ここではこの種の表現が会話のクロージ

ングとして使われるという機能に注意してほしい。すなわち、「五時にいつもの喫茶店で」という情報は、I-3の⑮で提示されているので、ここではそれを再度ことばに出して確認することで、会話終了のマークにしているのである。また、文全体を言わずに後部を省略するのも、クロージングとして使われた確認の表現だからである。もちろん、

⑮' じゃ、五時にいつもの喫茶店で。

という形を使うことはかまわないが、省略せずに文全体を言ってしまうと、日本語としてはむしろ奇妙な会話になってしまう。

II 喫茶店で (25~46)

石井と田中が喫茶店で待っている。そこへ、京子がカメラバッグを持って現れる。京子は香も誘っていた。香はすこし遅れて、浴衣を着て現れる。

II-1 京子がやってくる (25~33)

喫茶店に京子がやってきて、香を誘ったことを告げる。

京子「25 どうも。」

石井・田中「26 やあ。」

京子「27 さっき、電話をありがとう。」

田中「28 京子さん、香さんも誘いましたか。」

京子「29 ええ。」

30 さっき、電話をしました。

31 香さんも、とても行きたがっていましたよ。」

石井「32 よみせの写真を撮るんでしょう。」

京子「33 ええ、たくさんとるつもりです。」

25の「どうも」とそれに対する26「やあ」は、親しい間柄でよく使われるあいさつの表現と考えられる。とくに学習のこの段階で外国人学習者が使えなければならない表現ではないので、使われる状況、対話者同士の親密度な

どが理解できれば十分であろう。なお、「やあ」については、第13課「おみまいに いきませんか」の解説書も参照のこと。

㊸の「電話をありがとう」については、この段階の学習者には「ありがとう」に前接する「を」は耳新しい形のはずなので注意が必要である。「電話をくださってありがとう」の省略と考えられるが、ほかにつぎのような例文をあげて注意を促すとよい。

〔5〕 先日は、めずらしいものをたいへんありがとうございました。

〔6〕 貴重な助言をどうもありがとう。

㊹の「香さんも誘いましたか」は、状況によって相手が当然果たすべきことを果たしたかどうかを、確かめるような詰問のニュアンスを持つ可能性がある。

〔7〕 (母親が子供に) もう宿題はすませましたか。

特に、ここではI-4の㊸で石井が「香さんも誘っててください」と頼んでおり、香を誘うことは京子の好意でもらったことなのだから、「香さんも誘いましたか」は強すぎるように思われる。もっとも自然なのは、

㊸' 香さんも誘ってくれましたか。

のように相手の好意を認定する表現を使うか、

㊸'' 香さんも来ますか。

のように、誘ったかどうかは言明せずに避ける言い方を用いるかであろう。

また、「__しましたか」ではなく、「__した？」という普通体の質問であれば、詰問調はなくなる。

㊸''' 京子、香も誘った？

㊸' うん、さっき、電話したわ。

なお、「__しましたか」の文型が詰問として使われるというのは、コミュニケーション上の機能を考えた場合のことであり、この文型自体の持っている意味・用法ではないことに注意されたい。この点については、3.1., 3.2. でくわしくふれる。

㊸の「とても」については、I-3の㊸の「ぜひ」との違いを学習者に確

認しておく必要がある。話者本人の希望を強めるのに使う「ぜひ」は、第三者の希望している状態を描写する「____たがっている」とは共起しない。なお、Ⅱ-3の㉔「どうしても」も参照のこと。

㉕の「香さんも、とても行きたがっていましたよ」については、コミュニケーションの流れから見ると、多少不自然な使い方のように思われるが、この点については3.4.で解説する。

㉖の「たくさんとるつもりです」は、意図、予定の表現で、3.3.でとり扱う。

Ⅱ-2 香がやってくる (㉔~㉗)

京子たちが談笑しているところへ、香がやってくる。

香 「㉔遅くなってごめんなさい。」

京子「㉕わたしも、いま来たばかりです。」

店員「㉖いちっしゅいませ。

㉗何にしましょうか。」

京子「㉘そうですね、コーヒーをください。」

香 「㉙ええ、わたしも。」

店員「㉚はい。」

㉕の「わたしも、いま来たばかりです」は自分も到着が直前であったという意味だが、ここでは、相手のあやまりに対して、「いいえ、あやまるにはおよばない」という内容の機能をもって使われている。くわしくは、3.1.を参照のこと。

㉔以下㉗までの喫茶店での店員と客のやりとりは、こういう状況でのものも単純なケースである。学習者のレベルによっては、もう少し複雑なものもバリエーションとしてあたえてやってもよいかもしれない。実際の喫茶店では、

㉗' 何になさいますか。

㉞'' お決まりになりましたか。

㉞''' もうご注文なさいましたか。

などのさまざまな形が「注文取り」の機能をもって現われてくる。これらの形は、文法的には複雑でも、場面の支えがあるので、この段階で聴解練習の材料として使えば問題は起こらないであろう。

II-3 香の浴衣について (㉠~㉤)

香は浴衣を着てきた。京子はその浴衣をほめる。

京子「㉠すてきな浴衣ですね。

㉡わたしも、こんなの、ほしいわ。」

香「㉢この間、デパートで見つけたんですよ。

㉣どうしてもほしくて買いました。」

京子「㉤そうですか。

㉥とてもいいですね。」

㉠の「浴衣」については、「着物」との違い、着方などとともに、そのことばについて日本人が持っている季節感を学習者に教えることが肝要である。

㉡の「こんな」は、類例を指示するコソアの一種で、この場合のように具体的な事物を例として、その類を指示する用法は理解しやすいが、「あんなこと言っている」「こんなふうにやってください」などの抽象度の高い用法になると難かしくなってくる。なお、III-1の㉣も参照のこと。

㉡、㉣の「ほしい」は、ここでの主要学習項目なので、3.3. で述べるが、ここでは㉡がコミュニケーション上の機能としては、「相手の持ち物をほめる」という機能をもって使われていることに注意してほしい。この機能で使われているときには、ほんとうにほしいと思っているかどうかは問題ではない。

㉣の「どうしても」は、「ほしい」を強める副詞であるが、I-3の㉣の

「ぜひ」と用法が多少異なるので注意が必要である。「ぜひ」は話者の発話時点（いま、現在）での希望、欲求を強めるのに対し、「どうしても」には発話の「いま」「現在」という条件は必要ではない。そこで、④の「どうしても」を「ぜひ」にかえることはできない。

④' ぜひほしくて買いました。

④の「買いました」は、より自然には「買ってしまいました」となる。 「____てしまう」は、第12課「そうじは してありますか」で扱っているが、「____てしまう」には「ある前提に反して____する」という用法があり、④では「買わないほうが賢明だったかもしれない」「高いものだから買わないほうがいいかもしれない」などの前提に反して、「買ってしまった」と発話するのが適切な状況だからである。

Ⅲ よみせで (④7~④8)

石井、田中、京子、香の4人は、連れだって上野のよみせに出かける。

Ⅲ-1 金魚すくいの店で (④7~④8)

京子は写真をとっているが、石井、田中、香は金魚すくいをはじめる。

田中「④7あー、金魚すくいですね。」

香「④8ほら、あの子、あんなにしたがっていますよ。」

田中「④9ぼくたちも、やりませんか。」

香「④10ええ、やりましょう。」

④11いくらですか。」

金魚すくい屋「④12一回、百円です。」

香「④13はい、三百円。」

金魚すくいについては、よみせの典型的な業種のひとつであること、どんな道具を使ってやるのか、すくった金魚をどうするのかなどを学習者に説明しておく必要がある。

㉔の「あんな」は、前に説明したⅡ－3の㉔の「こんな」とは用法が少し違うので注意が必要である。㉔の「こんな」は、「この浴衣と同じような（他の）もの」の意味であるが、㉔の「あんな」は、ある例を示してその同類を指示するのではなく、その状態をことさらにとりあげるという意味になる。この二つの違いについては、つぎの例を参照のこと。

〔8〕は前者、〔9〕は後者の例である。

〔8〕（絵を見せて）こんな財布、落ちていませんでしたか。

〔9〕（拾った財布をさし出して）こんな財布が落ちていました。

なお、用言を修飾するときは、㉔のように「あんなに」「そんなに」「こんなに」の形をとる。学習者に対しては、

〔10〕 こんな高い本をいただいて、もうしわけありません。

〔11〕 こんなに高い本をいただいて、もうしわけありません。

などの例を示して、確認させるとよい。

㉔㉕は、「～やりません」（勧誘）、「～やりましょう」（自分の意志）の対応。

Ⅲ－2 金魚すくいの成果（㉔～㉕）

3人は、金魚すくいに興じている。

香 「㉔あーあ、残念。」

石井 「㉕ぼくは、二匹すくいました。」

香 「㉔もっと、すくうつもりですか。」

田中 「㉕ええ、もちろん。」

香 「㉔そおっと、そおっと、静かに。

㉕あー、もう少しですくえるところでしたね。」

画面では見えないが、香はおそらく一匹もすくえなかったらしい。㉕の「ぼくは」は、一匹もすくえなかった香に対比する意味で使われている。

㉔の「もっと、すくうつもりですか」は、ここではこの表現が相手をせか

したり、揶揄したりする機能を持って使われる場合があることに注意しておきたい。とくに、「もっと」でなく「まだ」を使うと、その感じがより強くなる。

⑤⑥' まだ、すくうつもりですか。(もう、行きましょうよ。)

⑤⑥'' まだ、すくうつもりですか。(まるで、子供みたいに熱中しているのね。)

この映画のなかでは、田中が⑤⑦「ええ、もちろん」と答えていることから判断して、多少揶揄するニュアンスをもって使われていると考えられる。ただし、現実のコミュニケーションでは、もし「揶揄」の機能でこの文が使われるとすれば、イントネーション、プロミネンスなどにそれがより明確に現れてくるのがふつうである。

⑤⑧の「もう少しですくえるところでしたね」の、「動詞の辞書形+ところ」は、その動詞の表す行為がもう少しで実現するという意味を表す。くわしくは、3.7.で解説するが、ここでは、この文型がコミュニケーション上は相手をなぐさめるという機能をもっていることにだけ注意しておきたい。

III-3 京子の写真について (⑥⑩~⑥⑦)

3人が金魚すくいをしている間、写真をとりに続けていた京子に、よい写真がとれたかどうかをたずねる。

田中「⑥⑩あれ、京子さんは？」

石井「⑥⑪ほら、そこでフィルムをかえているところです。」

香「⑥⑫どうです？」

⑥⑬だいぶとれましたか。」

京子「⑥⑭ええ。」

⑥⑮二本目のフィルムが終わったところです。

⑥⑯もう少し、このあたりの写真をとりたいんですが……。」

石井「⑥⑰じゃあ、先に行っています。」

㉔の「フィルムをかえているところだ」の「動詞・テイル形＋ところ」の形は、「ところだ」のもう一つの形で、くわしくは3.7. で扱う。「___しているところだ」の現実のコミュニケーションでのもっとも一般的な使い方は、

[12] A おーい、まだか。

B はーい。今、着がえているところだから、ちょっと待って。のように、「___しているところだ」を一つの状態とすると、それをある時点〔1〕の例では「待つ」という時点〕に関係付ける用法である。単にある状態にあることを描写するために使われることはあまりない。この映画でも、㉔をただ京子の状態を述べていると考えると不自然になる。ここでは、㉔の「京子さんは？」を「そろそろ行こうと思ったのに京子がいな。いったい何をしているんだろう」という機能を含むものと解釈し、㉔を「フィルムをかえているところだから、もう少し待ってやろう」と考えれば、不自然でなくなる。

㉕の「とれる」は、「とる」の可能の形で、能力可能ではなく、いわゆる状況可能の表現である。状況可能も含めて、一般に可能の形については、第17課「あのいわまで およげますか」でとりあげているので、その解説書を参照されたい。

㉖の「二本目のフィルムが終わったところだ」の「動詞・タ形＋ところ」の形は、「ところだ」の第三の形で、その動作が終了した直後であることを表す。くわしくは、3.7. でほかの二つの用法とともに解説する。

㉗の「写真をとりたいんですが……」は、意志・希望の表現であるが、ここでは「が……」の形で希望をやわらげる形になっていて、許可求めの機能で使われていることに注意したい。

Ⅲ-4 やきそば屋

石井たちは、よみせを見てまわる。やきそば屋は、よみせの典型的な食べ物を扱う店の一つで、石井、田中はそこで一皿たべる。

Ⅲ-5 風鈴屋

風鈴屋も、夏のよみせの風物詩の一つ。風鈴には、金属製のものもあるが、よみせで売るのは、この映画でも見られるように、涼味を感じさせるガラス製のものが一般的である。

Ⅲ-6 ベっこうあめ屋

ベっこうあめは、砂糖を原料としたあめの一種で、動物の型などに流し入れて固めて作る。しんこ細工、カルメラ焼きなどとともによみせや縁日の屋台で売る典型的な菓子。

Ⅲ-7 水中花について (⑥⑧~⑦⑩)

4人は、水中花を売る店の前で立ちどまる。

香 「⑥わあー、きれい。」

京子 「⑧妹が、これをほしがっていました。」

香 「⑩わたしも、ほしいわ。」

⑧の「ほしがっている」は、第三者の希望、欲求を描写する表現。⑩の「ほしい」とともに3.でくわしく扱うが、「ほしい」の対象が助詞「が」あるいは「を」で表されるのに対し、「ほしがっている」の対象は、⑧にあるように「を」でしか表されない。

Ⅲ-8 水中花の素材について (⑦⑪~⑭)

女性たちが水中花の品さだめをしている間、石井と田中は水中花の素材について語りあう。

田中 「⑦これ、何でできているんですか。」

石井 「⑭これは、木でできているんですよ。」

田中 「⑮ふーん、木で作ってあるんですか。」

石井 「⑭ええ、きれいなものですね。」

⑩の「これ」は水中花を指す。水中花は、画面に示されるように、細かい木片に彩色し、花の形にして圧縮したもので、水のなかに入れると、あわを出しながら美しく開く。江戸時代に盃洗に入れるなどして、酒席で流行したが、現在はよみせのおもちゃとして残っている。

⑦, ⑧, ⑨の「で」は、材料, 原料を表す助詞。「麦からビールを作る」などの「から」と比較してほしい。第13課「おみまいに いきませんか」の解説を参照のこと。

⑩の「作ってある」については、⑦, ⑧の「できている」と対比して、まず学習者に「作る」が他動詞で、意志的であり、「できる」が自動詞で無意志的であることを確認させるとよい。このような「てある」と「ている」の対比的な使用は、実際のコミュニケーションでもしばしば現れる。

[13] A お茶、いれてあるから、そろそろ休憩にしたら。

B おっ、お茶がはいっているんですか。

なお、「てある」については、第12課「そうじは してありますか」の解説書を参照されたい。

⑭の「ものだ」は、形式名詞としての用法と考えられる。「ものだ」の形式名詞としての用法の一つに、

[14] 映画は、ほんとうにおもしろいものだ。

[15] 人生とは、つらいものだ。

などの一般論としての判断を示す用法があるが、その一般論をあらためて認識したという気持ちを含めると、つぎようになる。

[14]' 映画って、ほんとうにおもしろいものだったんですね。

[15]' 人生って、つらいものだったんですね。

この用法から、一般にある事実に気付いたときの詠嘆を表す用法が出てくる。

[14]" 映画って、ほんとうにおもしろいものですね。

[15]" 人生って、つらいものですね。

⑯の「きれいなものですね」もこの用法である。

Ⅲ-9 ふたたび京子の写真について (㉕~㉗)

石井たちは、京子に写真をとり終わったことを確めてから、休憩することにする。

田中「㉕京子さん、写真は、とり終わりましたか。」

京子「㉗ええ、とりたいものは、だいたいとり終わったところです。」

㉕と㉗の「とり終わる」は、動作の終了を表す複合動詞であるが、これについては、第12課「そうじは してありますか」でとりあげているので、その解説書もあたられたい。

㉗の「とり終わったところです」は、コミュニケーション上の機能としては、相手の気使い（「写真は、とりおわりましたか」によって示される）に対する「ご心配なく」という含みをもっている。これについては、3.1.で解説する。

Ⅲ-10 休憩の相談 (㉘~㉚)

どこで休むかを話しあったところ、京子がビールを飲みたいというので、すし屋に行くことに決まる。

石井「㉘じゃあ、少し休みませんか。」

田中「㉙何か食べたいですね。」

香「㉚さっき、やきそばを食べたばかりじゃありませんか。」

京子「㉛少し、疲れました。」

㉛ビールが飲みたいですね。」

田中「㉜じゃあ、ビールを飲みながら、おすしを食べましょうか。」

京子「㉝行きましょう。」

石井「㉞ええ。」

㉙の「何か食べたい」は「__たい」に「疑問詞+か」の形が付いたものの。㉚の「ビールが飲みたい」は「__たい」の対象物が助詞「が」で表

される例で、3.3. で述べるように、「飲みたい」「食べたい」などには、「__が__たい」の形が現れやすい。

㉒の「食べたばかり」は、食べた直後であることを表すが、「__したばかりだ」と「__したところだ」の違いについては、3.7. に説明がある。

㉓の「__じゃありませんか」は、相手をからかうニュアンスを含んでいる。「__したばかりだ」にも、「ひやかし」の機能をもつ可能性があるもので、㉒の「さっき、やきそばを食べたばかりじゃありませんか」は、典型的な「ひやかし」「からかい」の用法になっている。

㉔の「ビールを飲みながら」は、二つの動作などが同時進行することを表すが、これについては、第17課「あのいわまで およげますか」の解説書も参照のこと。なお、「__じゃありませんか」も、同書に説明がある。

㉕、㉖は、「～ましょうか」(自分の意志にもとづく勧誘)、「～ましょう」(自分の意向)の対応。㉗㉘の対応を参照のこと。

IV すし屋で (㉕～㉘)

石井、田中、京子、香の4人は、すし屋でビールを注文し、すしをつまんで、疲れをいやす。

IV-1 ビールの注文 (㉕～㉗)

石井が、まず京子の飲みたがっていたビールを注文する。

店主「㉕はい、いらっしゃい。」

石井「㉖ビールを三本。」

店主「㉗はい、ビール、三本。」

この小場面については、とくに言語的に問題になるようなものはない。ただ、学習者にすし屋での注文のしかたなど、他の飲食店にない特徴を説明しておくとうよいであろう。ふつう、すし屋ではすし職人が調理する目の前で食べる(これを「付け台で食べる」という)。この場合は、定食を食べるほか

に、すしを一つずつ注文することもできる。このような注文のしかたでは、それぞれのすし屋の値段は明示されていないのがふつうである。ビールその他のアルコール類の注文も、だいたい目の前にいるすし職人にする。すし職人は、それを奥にある飲み物を用意したり、すしの下準備をしたりする副調理場に通す。㉗の店主による「ビール、三本」という復唱はそのためのことばと考えられる。

IV-2 金魚について (㉘~㉚)

店主が石井たちの持っている金魚に言及する。

店主「㉘おっ、金魚ですね。」

田中「㉙いま、そのよみせですくって来たところなんですよ。」

店主「㉚そうですか。」

㉘きれいな金魚ですね。

㉚はい、ビール、お待ちどうさま。」

㉘の「おっ」は、びっくりしたときや、何かを見つけたときなどに発する間投詞で、男性が用いる。女性であれば、「あら」「あっ」などを使うのがふつう。

㉙の「そのよみせ」の「そこ」は、学習者がしばしば「あそこ」とまちがえるので、注意が必要である。この場合の「そこ」には、いわゆるコソアの単純な体系では解釈できない部分がある。ここでは、ソの領域を拡大解釈して、ソに関係する「あなた」の注目を「よみせ」に集める意味で「そこ」が使われていると説明するのがよいであろう。

㉚の「お待ちどうさま」は、飲食店、その他の商店で注文された品物、おつりなどを渡すときの決まり文句で、人を待たせたりしたときのわびのことばである「お待たせしました」との使用場面のちがいを学習者に確認する必要がある。

IV-3 ビールで乾杯 (93~97)

石井たちはビールで乾杯する。

京子「93じゃ。」

石井・田中「94どうも。」

京子「95あー、ビールが飲みたかった。」

96今日は、とてものが乾きました。」

香 「97ええ。」

93の「じゃ」は、「(ビールが来ました。)では、飲みましょう/乾杯しましょう」の「では」の縮約形と考えられる。「では」は、あることを打切って、あらたな行動を始めるときなどに使われる間投詞で、親しい間柄で用いられる別れの挨拶「じゃ(また)」などもこの用法の一つと考えてよい。

95の「飲みたかった」は、「飲みたい」の過去形で、くわしくは3.3.を参照のこと。

96の「のが乾く」については、体の部位を使った慣用句として、「おなかがすく」「手が早い」などとともに学習させるとよい。

IV-4 まぐろとえびの注文 (98~100)

香がまず、まぐろとえびを注文する。

店主「98何にしましょう。」

石井「99うーん、香さん、何が食べたいですか。」

香 「100そうですね。」

「101わたしは、まぐろとえび。」

店主「102まぐろとえびですね。」

香 「103ええ。」

98の「何に」と99の「何が」については、「なん」と「なに」の使い分けに注意のこと。「なん」を使う例としては、「なんにん」「なんぼん」「なん

じ」などの助数詞に結び付くとき、「だ」「です」に結び付くとき、助詞の「の」「で」に結び付くときなどがある。「なに」を使うのは、他の語と結び付いて疑問詞的表現を作るとき（「なにじん」「なにもの」など）、助詞「が」「を」「より」「から」「も」に結び付くときなどである。助詞「に」「と」「か」に結び付くときは、「なに」「なん」の両方が使われる。「なに」と「なん」の使いわけについては、学習者につきのような例を示して確認させるとよい。

[16] あの人、なにじん（何人）ですか。

[17] 来る人は、なんにん（何人）ですか。

[18] あの人のお出身は、なにけん（何県）ですか。

[19] こんど、知事選挙があるのは、なにけん（何県）ですか。

㊸「～にしましょう」は、㊹「～にしましょうか」と同じく相手の意向をきいている。

㊺の「何が食べたいですか」は、「____が____たい」の例。ただし、現実のコミュニケーションでは、よっぽど親しい間柄か、子供などの目下の人間に対してしか、この形で相手の希望を尋ねることはないように思われる。ふつう、このような場合には、「何にしますか」などが使われる。「何が食べたいですか」を使うと、相手におごるようなニュアンスが感じられる。

IV-5 よみせについて (㊻～㊽)

4人は、すしをつまみながら、今、見てきたよみせについて語り合う。

田中「㊻おもしろい店が、たくさんありましたね。」

香「㊼ええ、また来たいですね。」

石井「㊽ええ。」

㊽の「ありましたね」は、いわゆる回想の「た」であるが、「た」については、第10課「もみじが とても きれいでした」でとりあげているので、その解説書を参照のこと。

㊦の「また来たいですね」は、相手の意見への同意の機能をもつ「____たい」の用法。3.3.の「____たい」の機能の説明のうち、「相手への調子あわせ」の機能を参照されたい。

3. この映画の学習項目のまとめ

ここでは、この映画の主要学習項目である意志・希望の表現「ほしい」「____たい」「つもりだ」「____(しよう)と思う」などと、時およびある時点での状態を表す表現「ところだ」「ばかりだ」についてまとめる。まとめ方の観点としては、それぞれの文型の「意味・用法」と「コミュニケーション上の機能」をとりあげる。文型（あるいは語句、表現）の意味・用法については、とくに説明するまでもないと思われるが、「コミュニケーション上の機能」とここで呼ぶものについては、まず最初に解説しておかなくてはならない。

3.1. 「意味・用法」と「コミュニケーション上の機能」

一般に、これまで多くの文法書である文型がとりあげられるときには、その文型の文法的構造と意味・用法が解説されるのが通例である。たとえば、「____ところだ」という文型についていえば、次のような記述が例としてあげられる。

形態・統語的特徴

トコロの中心的意味は、ある全体を視野に入れながら、その一部分にスポットライトを当てるときのそのスポットライトの当たる部分、というように捉えるのが正しいと思われる。その全体と部分は、空間的な広がりでも、時間的な広がりでも、またもつと漠然とした状況でもよい。そして、この中心的な意味が、……この項で見ようとするムードの助動詞となったトコロダにも保たれている。

あとで見るような意味で使われる、ムードの助動詞としてのトコロダ

は、動詞、形容詞の確言形（筆者注、いわゆる辞書形）につく。「名詞（筆者注、いわゆるナ形形容詞）＋ダ」は、「～ナトコロダ」となる。

「名詞＋だ」は、実際には見られない。「(名詞) トイウトコロダ」というような言いかたはある。

「～トコロダ」全体は、過去形にはなるが、否定形にはふつうならない。

.....

「～トコロカ？」という疑問文は、あり得るように思うがあまり聞かれない。

ある質問に対して、「ソノトコロデス」というように答えることもないようである。

.....

意味・用法

まず多いのは、次のように、ある物事の進行の中のどういう状態、段階にあるか、ということを用法である。

(例) 彼はやがて自分の傍を顧りみて、そこにごんでいる日本人に、一言二言何か言った。その日本人は砂の上に落ちた手拭を拾い上げているところであったが、それを取り上げるや否や、すぐ頭を包んで海の方へ歩き出した。その人がすなわち先生であった。

(夏目漱石「こころ」)

.....

アスペクトを、客観的に、事態の進行過程の一つの相、段階と捉えて示す文法形式であるとする、と、「～トコロダ」をアスペクトの形とするのは適当ではないと思う。それは、発話時（過去形ならその過去の時点）での主体の状況、どういうアスペクト的段階にあるかという状況を、話し手がことさら言おうとする心理に出る表現、つまりムードの形式と考えられるからである。

.....

単に、雨が降っているという進行のアスペクトを表わすのに、

(79) 雨が降ッテイルトコロダ

とは言わないし、「～トコロダ」という表現を、単なるアスペクト的描写にするとおかしい感じがすることが多い。

……以上のことは、「～トコロダ」が、単なる動的事象の相を客観的に述べるというのではなく、その相を、その場面でとくにある意味をもつものと見、そのことを相手に伝えようとする主観的な態度を表わすものであることを示している。

上のことは、次のような、「ふつうならこうなるはずの状況だが、このときはそうではない」ということを言う「～トコロダ」の用法になると、いっそう顕わになる。

(80) 普通なら即座に断わるところだが、これから……

(81) 九月。休暇ボケ、暑さボケと縁を切り、一ネジ巻きたいところ。

(日本経済新聞)

寺村秀夫 (1984) p. 290

時を表す「ところ」

(1) 時点を表す

動詞に付いて、その動作で現象が生じた時点を表す。「……しているところ／……したところ／……するところ」のあとは、「へ／に／を／でだ」などの助詞や助動詞を伴う点特徴的。

Aの状況にあるときにBの状況が重なって起こるのである。“Bの状況の起こる時点は、A状況のときだと指定する”と言い換えてもいい。B状況が起こらなければ、「お忙しいところを、ありがとうございました」「お休みのところをお騒がせしました」のような例となる。さらに、A状況だけを取り出せば、現在の時点がA状況においてであることを指定する。

「今帰ってきたところだ」「今調べているところです」「これから行くところよ」

現在まさにAの状態になったことを表し、先行動詞の時制に応じて、“直後／最中／直前”の意となる。この用法がさらに、「数秒の違いで追突するところだった」「そうとも知らずのこのこ出掛けて行くところだった」A状態になりかけた、なるかもしれなかった、の例を作る。

森田良行(1980) p. 343

このような説明は、文型の文法的構造、意味・用法については、十分にくわしい説明である。しかし、この文型の実際のコミュニケーション過程での使い方を説明しきっているとは考えられない。森田(1980)の用例の実際のコミュニケーションにおける出現例を考えてみよう。

[20] A ねえ、宿題手伝ってよ。

B おい、今帰ってきたところだよ。ちょっとゆっくりさせてくれよ。

[21] A おーい、あの書類まだできないのか。

B はい。ちょっと待ってください。今調べているところです。

[22] A (電話で)まだ家にいるのか。もう約束の時間とつくに過ぎたぜ。

B ごめんなさい。服どれにしようか迷っちゃって。これから行くところよ。

これらの会話例には「____ところだ」の使い方に関して、共通した特徴が見られる。すなわち、どの会話でも、「____ところだ」が、相手からの働きかけに対して、自分の状況を説明して言いわけをしているという点である。このような場合に、「____ところだ」の文型が「言いわけ」というコミュニケーション上の機能(以下、単に「機能」と呼ぶ)を持っているという。

機能について問題なのは、それがあある文型が固有に持っている「意味・用法」ではないという点である。[20], [21], [22]の会話から「____ところだ」の文だけを取り出してしまえば、そこにはもう「言いわけ」という機能は見られなくなる。つまり、機能とは、あくまでも現実のコミュニケーションの中である文型が“帯びる”ものであって、コンテクストがなくては、その文型が担うことがなくなってしまうものである。それに対して、「意味・

用法」とこれまで呼ばれてきたものは、むしろコンテキストを捨象することによって導き出されるものである。

その意味では、従来の意味・用法が意味論 **semantics** のレベルに属すものであるのに対し、機能はあきらかに語用論 **pragmatics** に属すものである。

機能に関して、ほかに指摘しておかなければならないのは、意味・用法とは異なり、機能は一つの文型に一つ特定することはふつうできないという点である。もちろん、意味・用法も一文型に複数に対応する場合がありますが、理想的には一文型に一意味・用法が特定されるはずであり、実際に研究の方向もそのように進んでいる。しかし、機能は一般にコンテキストにしたがって複数存在する。たとえば、「____ところだ」の文型は、実際の会話例として次のようなものもありうる。

[23] A (電話で) 今なにしてるの。

B 今料理しているところ。あなたは。

A 私はね、今レポートが終わったところなの。

この場合には、[20]、[21]、[22] のような「言いわけ」の機能は考えられない。この場合の機能は、「報告」であり、そこでは「____ところだ」の意味・用法がはっきりあらわれている。

このように、機能は、ある文型について複数考えられ、しかもその中に機能としては無色透明で意味・用法がはっきり現われるものと、機能が表に出て、意味・用法はその陰にかくれてしまうものことがある。一般に「報告」「説明」などの機能を持って使われる場合には意味・用法が表に出ることが多いが、要求、ことわり、言いわけなどの対人関係要素の強い言語行動では、機能が強く表に出てくる。

また、文型の中には、もともと対人的な言語行動をその意味・用法として持っているものもある。たとえば、命令形、「____てくれ」などの文型は、本来相手に対する働きかけを意味・用法として持っており、機能もまたそれとほとんど同一である。意味・用法と機能が重なりあう場合には、機能はそれほど数が多くないのがふつうである。一般に事実描写的な意味・用法をも

つ文型ほど、機能は多岐にわたっているのがふつうである。

3.2. 文型の機能と日本語教育

従来の日本語教育において、機能面の研究が立ち遅れていたのは、一つには機能がある文型に対し一つに特定できない性質のものであり、その意味で一文型に一つの意味・用法を限定することに目標を置く研究の方向と合わなかったことであろう。しかし、もっとも重要なのは、これまでの研究が、寺村(1984)の前掲引用部分にも見られるとおり、用例を書きことばに求める傾向を持っていたことである。そのために、ことばの研究が全体に、対人的(interactional)な面を軽視し、事実描写的(descriptive)な面のみをとりあげる結果となった。

機能は、一般に話しことばの中で実現される。しかも、機能を特定するためには、その文型を持つ文一つだけをとり出したのでは困難で、前後のコンテキストを考慮した、談話レベルの考察を行わなければならない。ことばの対人的な面は、話しことばを資料として談話レベルの分析をしてはじめて、とり出すことができるのである。

日本語教育の教材も、この日本語教育映画を含めて、日本語研究のこのような傾向に影響を受けている。日本語教育が話しことばを中心とし、日本語によるコミュニケーション能力を与えることを目的とするのであれば、話しことばにおける談話が教育の基礎になるべきである。そうであれば、文型の扱いも、文法的構造と意味・用法のみに焦点をあてるのではなく、機能についても十分な考慮を払うべきであろう。

とくに、教科書の会話文、教育映画などでは、学習項目としての文型をもっとも自然で典型的な使い方の日本語として提示するべきものである。そこでは、当然その文型のいくつかの機能のうち、もっとも典型的なものが実現されていなくてはならない。しかし、現実には、多くの場合、文型の機能は無視され、意味・用法のみが注目されている。例として、この映画の「____ところだ」の扱いを見てみよう。

2.2.のⅢ-3で、

田中「㉔あれ、京子さんは？」

石井「㉕ほら、そこでフィルムをかえているところです。」

という会話が提示されている。先にもふれたように、「____ところだ」のもっとも典型的な機能は、「言いわけ」であり、そのふつうの会話例はⅢ-3でもあげたが、次のようなものである (p. 19)。

[12] A おーい、まだか。

B はーい。今、着がえているところだからちょっと待ってて。

㉔と㉕の会話を「言いわけ」機能が発揮されているものと考えためには、

㉔ もうそろそろいきましようか。あれ、京子さんは？

㉕ あ、今、フィルムをかえているところだから、もうちょっと待ってましようよ。

のように解釈しなければならない。しかし、ここでは㉔に「ほら、そこで」があるために、このような解釈は難かしいように思われる。とすれば、この会話は、「____ところだ」の意味・用法「ある物事の進行中のどういう状態、段階にあるか、ということを使う」(寺村(1984)前掲引用部分参照のこと)に、引きずられた作例で、不自然であると言わざるを得ない。

ここで述べたことは、もちろん教育において意味・用法を軽視してよいという意味ではないことはいままでもない。文型の意味・用法は機能の教育に至る前段階としてぜひとも必要である。そのための練習も欠かせない。しかし、その段階でとどまってしまうのは困るので、最終的には機能を体得した談話の練習まで行かなければならない。教科書の会話文、(あるいはダイアログ)や教育映画などは、そのためのモデルを示してあるはずのものである。だからこそ、そこでは機能が重視されていなければならないのである。

最後に、言語の対照研究において、機能が問題になる例をあげておこう。この映画の中につぎのような会話がある。

(香の浴衣について)

京子「㉖すてきな浴衣ですね。」

④わたしも、こんなの、ほしいわ。」

香 「④この間、デパートで見つけたんですよ。」

ここでは「ほしい」は、「相手の持ち物をほめる」という機能を持って使われている。ところが、もし、「ほしい」を英語の“want (some thing)”に対応させると、英語の“want”にはこの機能がないので、英語を母語とする学習者は、つぎのような誤用を犯す可能性が生じる。

[24] A すてきな浴衣ですね。わたしもこんなのほしいわ。

B Aデパートの3階で売っていますよ。

このような誤用は、日本語の「ほしい」と英語の“want”が意味・用法の上ではほぼ一致していても、機能面でくいちがいがある（「__たい」と“want to”についても同様）ためである。

3.3. 以下では、この映画の主要学習項目について、意味・用法と機能について説明していく。

3.3. 「ほしい」「__たい」の意味・用法と機能

3.3.1. 意味・用法

「ほしい」は何かを得ることを希望すること、「__たい」は「__」の部分に来る動詞の表す動作・行為が実現することを希望していることを表す。一般に希望する主体は話者で、他者の希望を表す場合は、後述の「ほしがる」「__たがる」のように「__がる」を付けるか「のだ」を付ける。または、「そうだ」「らしい」などの助動詞を付けるか、「と思う」「と言う」などの引用の形をとって、第三者の希望を表すこともできる。

用法の上では、「__たい」の文型について、「__が__たい」と「__を__たい」の使いわけが問題になる。これについては、統一的な原理で使いわけを説明するより、いくつかの傾向として把握するほうが適切のように思われる。

1. 動詞の表す動作・行為が主たる問題であるときは、「__を__たい」をとり、動作・行為の対象が主たる問題であるときは、「__が__たい」

をとることが多い。

[25] テレビを買いたい。

[26] 16インチのテレビが買いたい。

[25] は、(テレビを) 買うという行為が問題となっており、[26] ではどんなテレビかが問題となっている。

2. 詠嘆的表現の場合で、とくに、「飲む」「食べる」「見る」「読む」「買う」などの「__たい」の形が「ほしい」と通ずる意味内容を持つものは、「__が__たい」の形をとることが多い。

[27] ビールが飲みたい。→ビールがほしい。

3. 音節数の多い動詞、補助動詞を含む動詞節などに「たい」を付けるときは、「__を__たい」になることが多い。

[28] あのビルをとりこわしたい。

[29] プレゼントを買ってやりたい。

4. 「__をする」などのように、動詞部分よりも「を」格の前の名詞部分が主要な意味を持つ動詞句に「たい」を付けるときは、「__が__たい」の形をとることが多い。

[30] 日本語の勉強がしたい。

[31] 富士山の写真がとりたい。

3.3.2. 機能

日常の言語行動のなかでもっともひんばんに現われる「ほしい」「__たい」文型の機能は、

[32] (図書館で) この本を貸り出したいんですが。

[33] ちょっと、この部屋使いたいんだけど。

[34] ミカン、一キロほどほしいんだが。

のような、「要求」の機能である。一般にこの機能を持って使われるときには、「の+が/けれど」を伴ない、後は省略されるのがふつうである。要求の内容はさまざまで、[32] については「どうしたらよいかの指示」

[33] では「許可」、[34] では「商品の提供」である。

この映画の中では、⑥⑥だけが「許可要求」の機能を持つ「____たい」の文型である。

⑥⑥ もう少し、このあたりの写真をとりたいんですが。

⑥⑦ じゃあ、先に行っています。

ここでは、⑥⑥の許可要求に対して、⑥⑦がその要求を容れる機能を持って使われている。

「____たい」文型が使われる例として、次のようなものも重要である。

[35] A 夏休みにいっしょに伊豆にいきませんか。

B わあー、伊豆ね、ぜひ行きたいわ。でも……。

この場合は、「____たい」が相手の勧誘に対する「断わりのやわらげ」という機能で使われている。この機能は、つぎに述べる「相手への調子あわせ」の機能の下位分類とも考えられるが、使われる状況が明確なので別の機能としてとりあげた。

日常生活の中で「____たい」の文型が現われるもう一つの典型的な場面は、つぎのようなものである。

[36] A 何かおもしろいことないかなあ。

B うん、旅行なんかしたいわねえ。

A うん、温泉に行きたいな。

B でも、お金ないしね。

この会話は、一種の時間つぶしであって、しかも、もっとも金のかからない時間つぶしである。ことばの機能の中には、この種の「相手への調子あわせ」とでもいうべきものが、かなり重要な機能としてあるように思われる。そして、「ほしい」「____たい」の文型は、その機能を担う文型のうち、重要なものの一つである。一般に「詠嘆」といわれる「____たい」の機能も、相手こそいないが、この機能の一種と考えられるし、「(相手の持ち物への)ほめことば」の機能もその一種であろう。この映画の中では、

① あーあ、どこかへ行きたいですね。

が「詠嘆」として、

④① すてきな浴衣ですね。

④② わたしもこんなの、ほしいわ。

の④②が「ほめことば」として、

④③ おもしろい店が、たくさんありましたね。

④④ ええ、また来たいですね。

と、

④⑤ わあー、きれい。

④⑥ 妹が、これをほしがっていました。

④⑦ わたしも、ほしいわ。

の④⑤と④⑦が「調子あわせ」の機能として使われている。④⑦、④⑤を「調子あわせ」と認定するのは、これらが本人に実際に希望があるかないかにかかわらずに使えるからである。④⑦についていえば、そう言ったからといって、現実に買うとは限らないし、④⑤についていえば、また本当に来ようと思ってなどいなくても、そう言えるのである。

最後に、「話者の希望の表明」という意味・用法が直接表に現われる機能がある。この映画では、

④⑧ よみせの写真をとりたいと言っていましたよ。

④⑨ ええ、ぜひ、いっしょに行きたいです。

④⑩ どうしてもほしくて買いました。

④⑪ ええ、とりたいものは、だいたいとり終わったところです。

④⑫ 何か食べたいですね。

④⑬ ビールが飲みたいですわ。

④⑭ あー、ビールが飲みたかった。

④⑮ うーん、香さん、何か食べたいですか。

がその用法と考えられる。

このうち、④⑮の連体修飾節の中の「____たい」については、一般に連体修飾節などの埋めこみ文においては、機能はもっとも透明なものが使われるという原則によっていると考えられる。④⑮については、前にもふれたように、

「と言う」の前の「____たい」は第三者の希望を表すので、本来はここで抜かうべきものではない。㉞は、「詠嘆」の機能に分類すべきものかもしれないが、一応ここに入れておく。㉟は、相手の希望をたずねる用法で、「話者の希望の表明」という規定にはあてはまらないが、「希望」という意味・用法が表に出ているという意味で同一の機能と認定した。

3.4. 「ほしがる」「____たがる」の意味・用法と機能

3.4.1. 意味・用法

「ほしがる」「____たがる」は、それぞれ「ほしい」「____たい」に接尾辞「がる」を付けて、動詞化した形で、「ほしい」「____たい」が話し手の主観を表すのに対し、第三者の状態を描写する表現になったものである。一般には「ほしがっている」「____たがっている」の形で使われることが多い。

「ほしい」の対象物は「が」、 「____たい」の対象物が「が」あるいは「を」で表されるが、「ほしがる」「____たがる」の対象物は「を」で表される。

「ほしがる」「____たがる」の主体はふつう第三者だが、次の例のように過去の回想や話者の状態を客観的に述べる場合などには、話し手が主体となることもある。

[37] 昔は、私もお菓子やケーキを食べたがったものです。

[38] 私が車をほしがっているのは、仕事に使いたいからで、遊びに使おうというのじゃないのです。

一般に、「ほしい」「____たい」が話者の希望、「ほしがる」「____たがる」が第三者の希望を表すというように平行的に考えられているが、前者は話者の主観の表明、後者は第三者の状態描写なので、用法上もかなり違った点が見られる。例 [37] [38] からわかるとおり、「ほしがる」「____たがる」には、希望の主体をつきはなして描写する感じがつきまとう。そのために、「ほしがる」「____たがる」の文の話者とその主体の間には、ある距離がないと使わないのがふつうである。目の前にいる第三者の希望を「ほしがる」「____たがる」で描写できるのは、その第三者が話者の子供であったり、目下

のものであったりする場合に限られるようである。

[39] この子が海外に出たがってしましてね。

この映画の中では、

㉘ 京子さん、香さんも誘いましたか。

㉙ ええ。

㉚ さっき、電話をしました。

㉛ 香さんも、とても行きたがってましたよ。

の㉛がその意味ではやや不自然な使い方である。㉛の話者は京子なので、㉛が自然な使い方であるためには、京子と香の間になんらかの意味で距離がなければならぬ。この場合、京子と香は友人同士なのだから、[39]のような目上、目下という意味での距離ではあり得ない。とすると、考えられるのは、香はここには来ないという前提で部外者という意味の距離であるが、現実には香も来るのであるから、この条件も成立しない。ほかには距離の存在を保障する妥当な条件が考えられないので、㉛は不自然なのであろう。実際もし、この会話がつぎのような形で、香がこないというのであれば、「____たがっている」は自然な用法となる。

㉜ さっき、電話しました。

㉝ 香さんも、とても行きたがっていたけれど、今日は先約があってだめなんだって。

3.4.2. 機能

「ほしがる」「____たがる」の機能としてまずあげられるのは、「第三者への同情、共感」である。この映画の中では、次の㉞が「共感」の機能で使われている。

㉞ あー、金魚すくいですね。

㉟ ほら、あの子、あんなにしたがっていますよ。

「同情、共感」は、その第三者の希望の実現に障害となっている者に向けられると、「非難」とか「勧告」になる。

[40] あの子、あんなにほしがっているのに。(どうして、お母さんは買

ってあげないのかしら)

[41] こんなに帰りがっているのよ。(もうそろそろ許してやったらどう?)

[40] が「非難」の機能を持つ例, [41] が「勧告」の機能の例である。

「____たい」の機能としてとりあげた「断わりのやわらげ」に対応する機能が「____たがる」にも考えられる。つぎの例を見られたい。

[42] A 山田君も誘ってくれた?

B ああ, あいつも行きたがっていたけど, ちょっとその日はむずかしいんだって。

先にとりあげた⑩の例もこれに相当する。

「第三者の希望の報告」という意味・用法と直接結び付いた機能で, 「ほしがる」「____たがる」が使われる例も多い。この映画の中では, つぎのものがその例である。

⑭ だれかほかに, 行きたがっている人, いませんか。

⑮ そうだ, 香さんが, よみせをみたがっていましたよ。

⑯ 妹が, これをほしがっていました。

このうち⑭は, 先にも述べたように, 連体節の中に「____たがる」文型が埋めこまれたもので, このような場合には機能としても, もつとも中立的なものが現われる。

3.5. 「つもりだ」の意味・用法と機能

3.5.1. 意味・用法

動詞の連体形に結び付き, 話者自身の予定・計画, 他者の意図の推測を表す。動詞の過去形や「名詞十の」に付くときは, 仮定を表す。つぎの例を参照のこと。

[43] もう勝ったつもりだったのに, 最終回で逆転されてしまった。

[44] 楽に合格のつもりが, なんと一次試験で落ちてしまった。

「つもりだ」の否定としては, つぎの二つの形がある。

[45] 私は行かないつもりだ。

[46] 私は行くつもりはない。

前者は「行かない予定」の意味で、後者は「行く意思はいっさいない」で非常に強い否定となる。

3.5.2. 機能

「つもりだ」の機能としては、まず「相談、誘いなどの切り出し」の機能があげられる。

[47] イギリス経済の研究をするつもりなんです。（どうお考えになりますか）

[48] 旅行に行くつもりなんです、よかったら、いっしょにいかがですか。

[47] は「相談の切り出し」、[48] は「誘いの切り出し」の例である。この映画の中の、

⑩ 今夜、上野のよみせへ田中さんと行くつもりなんです。も「誘いの切り出し」と考えられる。この機能については、後述の「____（よ）うと思う」と共通である。

相手の勧告、勧誘に対する「拒否」の機能も「つもりだ」の重要な機能の一つである。

[49] A もうそろそろ帰らないか。

B うん、もう少しやっついていくつもりだから、お先にどうぞ。

[50] A そういうやり方はあんまりうまくないんじゃないか。

B いや、私はこれでやるつもりです。

この機能に関しても、「____（よ）うと思う」と共通している。

つぎの二つの機能は、「____（よ）うと思う」では実現しにくい。

[51] こんなに金ばかり使っちゃって、いったいどうするつもりなんだ。

[52] 図書館の本をよごしちゃって、どう言って返すつもりなの。

これらは、「叱責」の機能を持つ「つもりだ」である。

「叱責」がごく軽くなると、一種の「揶揄、ひやかし」の機能となる。

[53] まだ、彼女をくどくつもりなの。(もうそろそろあきらめたほうが
いいんじゃないかしら)

[54] もっと、食べるつもり？(あんまりばかなことはしないほうがいい
よ)

この映画では、

㉞ もっと、すくうつもりですか。

㉟ ええ、もちろん。

がこの機能で使われていると考えられる。

話者の「予定、計画の表明」という透明な機能で使われているのは、この
映画では、つぎの例のみである。

㊱ よみせの写真をとるんでしょう。

㊲ ええ、たくさんとるつもりです。

3.6. 「____(よ)うと思う」の意味・用法と機能

「____(よ)うと思う」と先の「つもりだ」とは、意味・用法については
ほとんど差がない。ただ、「つもりだ」の [43], [44] に対応する「仮定」
の用法はない。また、否定は、

[55] 山田さんは田舎に帰ろうと思っていない。

の形をとるか、「つもりだ」の否定を用い、

[56] 山田さんは田舎には帰らないようにしようと思っている。
という意味が違ってくる。

機能についても、「叱責」「揶揄、ひやかし」の機能を除けば、ほぼ「つ
もりだ」と同様である。

3.7. 「ところだ」の意味・用法と機能

「ところだ」については、3.1. で意味・用法、機能ともに解説してあるの
で、ここでは簡単にまとめるにとどめる。

3.7.1. 意味・用法

「ところだ」は、ある時点での状態を表すが、「ところだ」に前接する動詞の時制にしたがって、その時点がその動詞の表す動作などの直後であったか、最中であったか、直前であったかを表す。つぎの例は、「ある時点」が発話時点である例である。

[57] ちょうど今、食事をしたところです。

[58] ちょうど今、食事をしているところです。

[59] ちょうど今、食事をするところです。

発話時点で「食事をする」という動作の [57] では直後の状態, [58] では最中, [59] では直前の状態であったことを表している。

[60] すんでのところ、乗りおくれるところだった。

は、そういう状態になりかけたことを表すが、基本的には [59] と同一の用法である。また、「ところ」には、「すんでのところ」などのように、動詞に付かない用法もある。

「ある時点」が発話時点でなく、言語表現によって特定されると、つぎのような形になる。

[61] ちょうど食事をしているところに、山田さんが来た。

[62] 地震があったとき、うちではちょうど食事が終わったところだった

3.7.2. 機能

「ところだ」の機能のうち、もっとも重要なものは、相手からの命令、要求などに対する「言いわけ」の機能である。

[63] A おい、あの書類はまだできないのか。

B はい、ちょっと待ってください。今調べているところなんです。

「直前」「直後」「最中」のどの意味・用法でも、この機能を果たすことができる。

相手からの働きかけが「心配」「気づかい」などになると、「ところだ」は「ご心配なく」の機能を持つことになる。

[64] A たいへんねえ。お手伝いしましょうか。

B ううん、だいじょうぶ。もう終わるところだから。

この映画では、

- ⑥② どうです？
- ⑥③ だいぶとれましたか。
- ⑥④ ええ。
- ⑥⑤ 二本目のフィルムが終わったところです。
- ⑦⑤ 京子さん、写真はとりおわりましたか。
- ⑦⑥ ええ、とりたいものは、だいたいとり終わったところです。

の、⑥⑤、⑦⑥がこの機能の用例と考えられる。

「ところだ」が相手に対する「なぐさめ」の機能を持って使われる場合がある。

〔65〕 残念でしたね。もう少しで成功するところだったのに。

この映画には、つぎの例がこの機能を表している。

⑤⑨ あー、もう少しですくえるところでしたね。

逆に「ところだ」が相手に対する「非難」を表す用例もある。

〔66〕 もうちょっとがんばれば、合格するところだったのに。いつも失敗ばかりしてるんだから。

「なぐさめ」「非難」の機能を持つ用例では、「ところだ」の前の動詞は辞書形がふつうだが、過去形「____した」になることもある。この場合の「た」は、いわゆる仮定的な用法である、

3.1. で引用した寺村（1984）であげられている、

〔67〕 ふつうなら即座に断わるところだが。（今回は特別に貸してやろう）は、「説論」の機能を持っており、

〔68〕 そろそろ、このへんでお茶になるところなんだけど。（今日はどうしたのかなあ）

は、「不審」の機能で使われている。

「ある時点での状態の描写」の中立的機能で使われるのは、この映画では、

⑧⑧ おっ、金魚ですね。

㊦ いま、そのよみせですくってきたところなんですよ。
の例がある。

3.8. 「ばかりだ」の意味・用法と機能

「ばかりだ」は、ある動作、作用などが起こった直後である状態を表すので、「____したところだ」とほぼ同じ意味内容を持っている。「ばかりだ」の前にくる動詞は「____した」の形をとるが、ほかに動詞の辞書形に結びつく。

[69] 出かけるばかりのところへ、友人が来て出発が遅くなった。
などの用法があるが、ふつう「ばかりだ」の形にはならない。また、「泣かんばかりの顔をして」「彼女に会いたいばかりに」などの用法もあるが、「ばかりだ」とは種類の違うものと考えられる。

「ばかりだ」と「ところだ」の意味・用法上の違いとしては、つぎのことがあげられる。

[70] この魚は釣ったばかりだ。

[71] とり終わったばかりのフィルム。

は、ふつうの表現だが、それに対応する「ところだ」を使った表現は奇妙になる。

[70]' この魚は釣ったところだ。

[71]' とり終わったところのフィルム。

同様に、この映画の中のつぎの例も「ばかりだ」にかえることができない。

㊧ だいぶとれましたか。

㊨ 二本目のフィルムが終わったところです。

もし、これがつぎのような会話だとしたら、「ばかりだ」が使えることになる。

[72] A フィルムまだあるかい。

B 二本目のフィルムが終わったばかりよ。

「ばかりだ」の機能は、だいたい「ところだ」と共通すると考えてよいが

が、「ところだ」よりも「直前」の度合が強いので、「ご心配なく」の機能などでは、使いやすい面がある。

[73] A お食事は。

B いや、今、食べてきたばかりだから。

[74] A どうも、お待たせしてしまいました。

B いやいや、わたしも今来たばかりですから。

この映画でも、[74]と同じ場面でこの機能が現われる。

㊸ 遅くなってごめんなさい。

㊹ わたしも、いま来たばかりです。

ただし、同じ「ご心配なく」でも、「お手伝いしましょうか」という問いかけに対する答としては、

[75] だいじょうぶ。今、できたばかりだから。

は奇妙である。これは、「ところだ」と「ばかりだ」の意味・用法上の違いによる。

「非難」の機能についても、「ばかりだ」のほうが強い調子になる。

[76] もうよごしちゃったの。洗濯したばかりなのに。

この映画のつぎの例も「ばかりだ」を「非難」の機能で使ったものであるが、ここでは「非難」の調子が強くなるというより、「ひやかし」のニュアンスが出てくる。

㊺ さっき、やきそばを食べたばかりじゃあないですか。

「ばかりだ」の意味・用法が透明に現われる例としては、

[77] この魚は、釣ってきたばかりだから、きつとうまいよ。

などがあげられる。

引用文献

寺村秀夫 1984 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版

森田良行 1980 『基礎日本語2』 角川書店

資 料

資料1. 使用語彙一覧

これは、この映画中に言語表現として現れた全ての語について一覧表にしたものである。資料2.のシナリオ全文同様、教材として活用できることも考慮してかな（ひらがな、かたかな）書きにしてある。

1. 見出し語はアイウエオ順に配列し、そこにその使用文例を全て書き出した。
2. 見出し語の認定については、初級日本語教育の立場に立っている。
 - 2.—1. 接頭語「お」や、接尾語「さん」「じ（時）」は、見出し語として取り上げている。
 - 2.—2. 数詞は、助数詞と切り離して見出し語に立てている。
 - 2.—3. 動詞は、終止形を見出し語にしている。サ変複合動詞は、「する」を切り離して二語扱いにしている。
 - 2.—4. 形容動詞は、「___な」の形を見出し語にしている。
 - 2.—5. 「たい」「がる」「たがる」は、動詞、形容詞から切り離し見出し語にしている。
 - 2.—6. 「です」に前接する「ん」「なん」は、一語扱いにして見出し語にしている。
 - 2.—7. 「いらっしゃい」「ごめんなさい」等、慣用的表現として扱ったものは、見出し語にしている。
 - 2.—8. 助動詞「た」や接続助詞「て」は、ここでは動詞部分に含め見出し語にしていない。
 - 2.—9. 助動詞「(よ)う」は、ここでは動詞部分に含め見出し語にしていない。
3. 見出し語の語義、活用変化、他の語との結びつき等に基づいて下位分類する場合には、(1)(2)……のようにした。
 - 3.—1. 動詞は、本動詞としての用法と補助動詞としての用法で大きく二分した。本動詞の場合は「ます」形であるか、「—て」等の形で

あるかで下位分類し、補助動詞が違えばさらに下位分類してある。また常体での言い方は、一語扱いにして別の分類にした。補助動詞の意味・用法の違いによる下位分類はしていない。

3. 一2. 「です」は、それに伴う終助詞の種類、また「です」に「ん」「なん」が前接するかどうかにより下位分類してある。
3. 一4. 助詞「か」「が」「に」「ね」「の」等は、その意味、用法によって下位分類してある。
4. 「ます」「ました」については文例の列挙を省略し、文番号だけを示した。「ません」「ましょう」は省略していない。
5. 使用文例の文頭には、①②……の数字がつけてある。これはシナリオでの文通し番号であり、この解説書全体に共通のものである。同一見出し語内では、この順に文例を提出した。(1)(2)……と下位分類した場合にも、その分類内で同一の提出順をとっている。全くの同一文については通し番号を横に並べ、引用を一回ですませた。
6. 見出し語の横には〔 〕で常用漢字の範囲内で漢字を示し、またその横には（ ）で語の使用回数を示した。

あー(5)

- ⑥ あー、きょうこさんがうえののよみせのはなしをしていました。
- ⑩ あー、きょうこさん。
- ④⑦ あー、きんぎょすくいですね。
- ⑤⑨ あー、もうすこしですくえるところでしたね。
- ⑨⑤ あー、ビールがのみたかった。

あーあ(2)

- ① あーあ、どこかへいきたいですね。
- ⑤④ あーあ、さんねん。

あう〔会う〕(1)

- ①⑤ ごじに、いつものきっさてんであいましょう。

あたり〔辺り〕(1)

- ⑥⑥ もうすこし、このあたりのしゃしんをとりたいんですが……。

あの(1)

- ④⑧ ほら、あのこ、あんなにしたがっていますよ。

ありがとう(1)

- ②⑦ さっき、でんわをありがとう。

ある(2)

- (1)④④ おもしろいみせが、たくさんありましたね。
- (2)②⑧ ふーん、きでつくってあるんですか。

あれ(1)

- ⑥⑩ あれ、きょうこさんは？

あんなに(1)

- ④⑧ ほら、あのこ、あんなにしたがっていますよ。

いい(1)

- ④⑥ とてもいいですね。

いう〔言う〕(1)

- ⑦ よみせのしゃしんをとりたいといっていましたよ。

いく [行く] (10)

(1)⑬ じゃあ、いっしょにいきませんか。

⑭ いきましょう。

(2)⑮ こんや、よみせをみにいきませんか。

(3)① あーあ、どこかへいきたいですね。

② ええ、ぜひ、いっしょにいきたいです。

③ だれか、ほかにいきたがっているひと、いませんか。

④ かおりさんも、とてもいきたがっていましたよ。

(4)⑤ じゃあ、さきに行っています。

(5)⑥ こんや、うえののよみせへたなかさんといくつもりなんですが……。

(6)⑦ まあ、わたしも、いこうとおもっていました。

いくら(1)

⑧ いくらですか。

いち [一] (1)

⑨ いっかい、ひゃくえんです。

いっしょに(2)

⑩ じゃあ、いっしょにいきませんか。

⑪ ええ、ぜひ、いっしょにいきたいです。

いつも(1)

⑫ ごじに、いつものきっさでんであいましょう。

いま [今] (2)

⑬ わたしも、いまきたばかりです。

⑭ いま、そこのよみせですくってきたところなんですよ。

いもうと [妹] (1)

⑮ いもうとが、これをほしがっていました。

いらっしゃい(1)

⑯ はい、いらっしゃい。

いらっしゃいませ(1)

㉗ ええ、きれいなものですね。

㉘ ええ、とりたいものは、だいたいとりおわったところです。

㉙ ええ、またきたいですね。

えび(2)

㉚ わたしは、まぐろとえび。

㉛ まぐろとえびですね。

えん [円] (2)

㉜ っかい、ひゃくえんです。

㉝ はい、さんびゃくえん。

お(1)

㉞ じゅあ、ビールをのみながら、おすしをたべましょうか。

おそい [遅い] (1)

㉟ おそくなってごめんなさい。

おっ(1)

㊱ おっ、きんぎょですね。

おまちどおさま [お待ちどおさま] (1)

㊲ はい、ビール、おまちどうさま。

おもう [思う] (1)

㊳ まあ、わたしも、いこうとおもっていました。

おもしろい(1)

㊴ おもしろいみせが、たくさんありましたね。

おわる [終わる] (2)

(1)㊵ にほんめのフィルムがおわったところです。

(2)㊶ きょうごさん、しゃしんは、とりおわりましたか。

(3)㊷ ええ、とりたいものは、だいたいとりおわったところです。

か(1)

(1)㊸ だれか、ほかにいきたがっているひと、いませんか。

㊹ きょうごさん、かおりさんもさそいましたか。

- ④⑦ なににしましょうか。
- ⑤① いくらですか。
- ⑤⑥ もっと、すくうつもりですか。
- ⑥③ だいぶとれましたか。
- ⑦① これ、なんでできているんですかね。
- ⑦⑤ きょうこさん、しゃしんは、とりおりましたか。
- ⑧⑨ うーん、かおりさん、なにがたべたいですか。
- (2)⑧ こんや、よみせをみにいきませんか。
- ①③ じゃあ、いっしょにいきませんか。
- ④⑨ ぼくたちも、やりませんか。
- ⑦⑦ じゃあ、すこしやすみませんか。
- ⑧② じゃあ、ビールをのみながら、おすしをたべましょうか。
- (3)②④⑤ そうですか。

- ⑦③ ふーん、きでつくってあるんですか。
- ⑦⑨ さっき、やきそばをたべたばかりじゃあないですか。
- ⑧⑩ そうですか。

が(11)

- (1)⑥ あー、きょうこさんがうえののよみせのはなしをしていました。
- ①⑨ そうだ、かおりさんが、よみせをみたがっていましたよ。
- ⑥⑤ にほんめのフィルムがおわったところです。
- ⑥⑧ いもうとが、これをほしがっていました。
- ⑥⑥ きょうは、とてものがかわきました。
- ⑥④ おもしろいみせが、たくさんありましたね。
- (2)⑧① ビールがのみたいですね。
- ⑥⑤ あー、ビールがのみたかった。
- ⑧⑨ うーん、かおりさん、なにがたべたいですか。
- (3)①① こんや、うえののよみせへたなかさんといくつもりなんですが……。
- ⑥⑥ もうすこし、このあたりのしゃしんをとりたいたいんですが……。

かい〔回〕(1)

㉟ いっかい、ひゃくえんです。

かう〔買う〕(1)

㊿ どうしてもほしくてかいました。

かえる〔替える〕(1)

㊿ ほら、そこでフィルムをかえているところです。

かおり〔香〕(5)

㊿ そうだ、かおりさんが、よみせをみたがっていましたよ。

㊿ かおりさんも、さそってみてください。

㊿ きょうこさん、かおりさんもさそいましたか。

㊿ かおりさんも、とてもいきたがってましたよ。

㊿ うーん、かおりさん、なにがたべたいですか。

がる(1)

㊿ いもうとが、これをほしがってました。

かわく〔渴く〕(1)

㊿ きょうは、とてものがかわきました。

き〔木〕(2)

㊿ これは、きでできているんですよ。

㊿ ふーん、きでつくってあるんですか。

きっさてん〔喫茶店〕(1)

㊿ ごじに、いつものきっさてんであいましょう。

きょう〔今日〕(1)

㊿ きょうは、とてものがかわきました。

きょうこ(5)

㊿ あー、きょうこさんがうえののよみせのはなしをしてました。

㊿ あー、きょうこさん。

㊿ きょうこさん、かおりさんもさそいましたか。

㊿ あれ、きょうこさんは？

⑦③ きょうごさん、しゃしんは、とりおわりましたか。

きれいな(3)

⑥⑥ わあ、きれい。

⑦④ ええ、きれいなものですね。

⑨① きれいなきんぎょですね。

きんぎょ〔金魚〕(2)

⑧⑧ おっ、きんぎょですね。

⑨① きれいなきんぎょですね。

きんぎょすくい〔金魚すくい〕(1)

④⑦ あー、きんぎょすくいですね。

ください(2)

(1)③⑧ そうですね、コーヒーをください。

(2)②⑨ かおりさんもさそってみてください。

くる〔来る〕(3)

(1)⑥⑩ ええ、またきたいですね。

(2)⑤⑤ わたしも、いまきたばかりです。

(3)⑧⑨ いま、そのよみせですくってきたところなんですよ。

こ〔子〕(1)

④⑤ ほら、あのこ、あんなにしたがっていますよ。

ご〔五〕(2)

⑤⑤ ごじに、いつものきっさてんであいましょう。

②④ じゃ、ごじに。

コーヒー(1)

③⑧ そうですね、コーヒーをください。

この(1)

⑥⑥ もうすこし、このあたりのしゃしんをとりたいんですが……。

このあいだ〔この間〕(1)

④③ このあいだ、デパートでみつけたんですよ。

- ②⑧ きょうごさん、かおりさんもさそいましたか。
③① かおりさんも、とてもいきたがってましたよ。
④⑩ あれ、きょうごさんは？
⑤⑦ きょうごさん、しゃしんは、とりおわりましたか。
⑥⑨ うーん、かおりさん、なにがたべたいですか。

さん〔三〕(2)

- ⑧⑥ ビールをさんぼん。
⑨⑦ はい、ビール、さんぼん。

さんねんな〔残念な〕(1)

- ⑤④ あーあ、さんねん。

さんびゃく〔三百〕(1)

- ⑥③ はい、さんびゃくえん。

じ〔時〕(2)

- ①⑤ ごじに、いつものきっさてんであいましょう。
②④ じゃ、ごじに。

しずかな〔静かな〕(1)

- ⑥⑧ そおっと、そおっと、しずかに。

じゃ(2)

- ②④ じゃ、ごじに。
③⑨ じゃ。

じゃあ(5)

- ⑧⑧ じゃあ、でんわしてさそってみましょうよ。
⑩⑬ じゃあ、いっしょにいきませんか。
⑦⑦ じゃあ、さきにいっています。
⑦⑦ じゃあ、すこしやすみませんか。
⑩⑩ じゃあ、ビールをのみながら、おすしをたべましょうか。

じゃあない(1)

- ⑦⑨ さっき、やきそばをたべたばかりじゃあないですか。

しゃしん〔写真〕(4)

- ⑦ よみせのしゃしんをとりたいたいといっていましたよ。
- ②② よみせのしゃしんをとるんでしょう。
- ③⑥ もうすこし、このあたりのしゃしんをとりたいたんですが……。
- ⑦⑤ きょうこさん、しゃしんは、とりおわりましたか。

すくう(3)

- (1)⑤⑤ ぼくは、にひきすくいました。
- (2)②⑨ いま、そのよみせですくってきたところなんですよ。
- (3)⑤⑥ もっと、すくうつもりですか。

すくえる(1)

- ⑤⑨ あー、もうすこしですくえるところでしたね。

すこし〔少し〕(2)

- ⑦⑦ じゃあ、すこしやすみませんか。
- ⑧⑩ すこし、つかれました。

すし(1)

- ③② じゃあ、ビールをのみながら、おすしをたべましょうか。

すてきな(1)

- ④① すてきなゆかたですね。

する(6)

- (1)②⑩ さっき、でんわをしました。
- (2)②⑦ なににしましょうか。
- ③⑨ なんにしましょうか。
- (3)③⑧ ほら、あのこ、あんなにしたがっていますよ。
- (4)④⑥ あー、きょうこさんがうえののよみせのはなしをしていました。
- (5)⑤⑧ じゃあ、でんわしてさそってみましょうよ。

ぜひ(1)

- ④④ ええ、ぜひ、いっしょにいきたいです。

そう(6)

(1)⑮ ㉓ そうですね。

⑳ ㉔ ㉕ そうですか。

㉖ そうですね、コーヒーをください。

そうだ(2)

㉗ そうだ。

⑲ そうだ、かおりさんが、よみせをみたがっていましたよ。

そおっと(2)

㉘ そおっと、そおっと、しずかに。

㉙ そおっと、そおっと、しずかに。

そこ(2)

㉚ ほら、そこでフィルムをかえているところです。

㉛ いま、そのよみせですくってきたところなんですよ。

たい(10)

(1)① あーあ、どこかへいきたいですね。

④ ええ、ぜひ、いっしょにいきたいです。

⑧ なにかたべたいですね。

⑪ ビールがのみたいですね。

⑱ うーん、かおりさん、なにがたべたいですか。

㉒ ええ、またきたいですね。

(2)② もうすこし、このあたりのしゃしんをとりたいたんですが……。

(3)③ ええ、とりたいものは、だいたいとりおわったところです。

(4)④ よみせのしゃしんをとりたいといっていましたよ。

(5)⑤ あー、ビールがのみたかった。

だいたい(1)

⑦ ええ、とりたいものは、だいたいとりおわったところです。

だいが(1)

⑩ だいがとれましたか。

たがる(4)

- ①⑦ だれか、ほかにいきたがっているひと、いませんか。
- ①⑨ そうだ、かおりさんが、よみせをみたがっていましたよ。
- ②① かおりさんも、とてもいきたがっていましたよ。
- ④⑧ ほら、あのこ、あんなにしたがっていますよ。

たくさん(2)

- ③③ ええ、たくさんとするつもりです。
- ④④ おもしろいみせが、たくさんありましたね。

たち(1)

- ④⑨ ぼくたちも、やりませんか。

たなか〔田中〕(1)

- ①① こんや、うえののよみせへたなかさんといくつもりなんですけど……。

たべる〔食べる〕(4)

- (1)②② じゃあ、ビールをのみながら、おすしをたべましょうか。
- (2)⑦⑧ なにかたべたいですね。
- ⑨⑨ うーん、かおりさん、なにがたべたいですか。
- (3)⑦⑨ さっき、やきそばをたべたばかりじゃあないですか。

だれか(1)

- ①⑦ だれか、ほかにいきたがっているひと、いませんか。

つかれる〔疲れる〕(1)

- ②⑩ すこし、つかれました。

つくる〔作る〕(1)

- ⑦③ ふーん、きでつくってあるんですか。

つもり(3)

- ①① こんや、うえののよみせへたなかさんといくつもりなんですけど……。
- ③③ ええ、たくさんとするつもりです。
- ⑤⑤ もっと、すくうつもりですか。

で(8)

- (1)①⑤ ごじに、いつものきっさてんであいましょう。

- ④⑧ このあいだ、デパートでみつけたんですよ。
- ⑥① ほら、そこでフィルムをかえているところです。
- ⑧⑨ いま、そのよみせですくってきたところなんですよ。
- (2)⑦① これ、なんでできているんですかね。
- ⑦② これは、きでできているんですよ。
- ⑦③ ふーん、きでつくってあるんですか。
- (3)⑤⑨ あー、もうすこしですくえるところでしたね。

できる(2)

- ⑦① これ、なんでできているんですかね。
- ⑦② これは、きでできているんですよ。

でした(1)

- ⑤⑨ あー、もうすこしですくえるところでしたね。

でしょう(1)

- ②② よみせのしゃしんをとるんでしょう。

です(⑦)

- (1)④④ ええ、ぜひ、いっしょにいきたいです。
- ③③ ええ、たくさんとるつもりです。
- ③⑤ わたしも、いまきたばかりです。
- ⑤② いったい、ひやくえんです。
- ⑥① ほら、そこでフィルムをかえているところです。
- ⑥⑤ にほんめのフィルムがおわったところです。
- ⑦⑥ ええ、とりたいものは、だいたいとりおわったところです。
- (2)②② どうですか？
- (3)⑤① いくらですか。
- ⑤⑥ もっと、すくうつもりですか。
- ⑤⑨ うーん、かおりさん、なにがたべたいですか。
- (4)②② ④⑤ ⑨⑩ そうですか。
- ⑦⑨ さっき、やきそばをたべたばかりじゃありませんか。

- (5)① あーあ、どこかへいきたいですね。
- ④① すてきなゆかたですね。
- ④⑥ とてもいいですね。
- ④⑦ あー、きんぎょすくいですね。
- ⑦④ ええ、きれいなものですね。
- ⑦⑧ なにかたべたいですね。
- ⑧① ビールがのみたいですね。
- ⑧③ おっ、きんぎょですね。
- ⑨① きれいなきんぎょですね。
- ⑩② まぐろとえびですね。
- ⑩⑤ ええ、またきたいですね。
- (6)⑩ ⑩⑩ そうですね。
- ⑩③ そうですね、コーヒーをください。
- (7)⑤ うえのですよ。
- (8)④③ このあいだ、デパートでみつけたんですよ。
- ⑥⑥ もうすこし、このあたりのしゃしんをとりたいんですが……。
- ⑦① これ、なんでできているんですかね。
- ⑦② これは、きでできているんですよ。
- ⑦③ ふーん、きでつくってあるんですか。
- (9)⑩① こんや、うえののよみせへたなかさんといくつもりなんですが……。
- ⑨③ いま、そこのよみせですくってきたところですよ。

デパート(1)

- ④③ このあいだ、デパートでみつけたんですよ。

でんわ〔電話〕(3)

- (1)⑧ じゃあ、でんわしてさそってみましょうよ。
- (2)②⑦ さっき、でんわをありがとう。
- ③⑩ さっき、でんわをしました。

と(5)

(1)㉔ わたしは、まぐろとえび。

㉔ まぐろとえびですね。

(2)㉕ こんにちは、うえののよみせへたなかさんといくつもりなんですが……。

(3)㉖ よみせのしゃしんをとりたいといっていましたよ。

㉖ まあ、わたしも、いこうとおもっていました。

どう(1)

㉗ どうです？

どうしても(1)

㉘ どうしてもほしくてかいました。

どうも(2)

㉘ ㉙ どうも。

どこ(1)

㉚ どの？

どこか(1)

㉛ あーあ、どこかへいきたいですね。

ところ(5)

(1)㉜ あー、もうすこしですぐえるところでしたね。

㉜ ほら、そこでフィルムをかえているところです。

(2)㉝ にほんめのフィルムがおわったところです。

㉝ ええ、とりたいものは、だいたいとりおわったところです。

㉞ いま、そのよみせですくってきたところなんですよ。

とても(3)

㉞ かおりさんも、とてもいきたがっていましたよ。

㉞ とてもいいですね。

㉞ きょうは、とてものがかわきました。

とる〔撮る〕(7)

(1)㉟ よみせのしゃしんをとりたいといっていましたよ。

㉟ もうすこし、このあたりのしゃしんをとりたいたんですが……。

- ⑦⑥ ええ、とりたいものは、だいたいとりおわったところです。
(2)⑦⑤ きょうこさん、しゃしんは、とりおわりましたか。

- ⑦⑥ ええ、とりたいものは、だいたいとりおわったところです。
(3)⑧⑨ ええ、たくさんとるつもりです。
(4)⑧② よみせのしゃしんをとるんでしょう。

とれる〔撮れる〕(1)

- ⑧③ だいぶとれましたか。

ながら(1)

- ⑧② じゃあ、ビールをのみながら、おすしをたべましょうか。

なに(なん)〔何〕(4)

- (1)⑧⑦ なににしましょうか。
⑧⑨ うーん、かおりさん、なにがたべたいですか。
(2)⑦① これ、なんでできているんですかね。
⑧⑨ なんにしましょう。

なにか〔何か〕(1)

- ⑦⑧ なにかたべたいですね。

なる(1)

- ⑧④ おそくなってごめんなさい。

なん(2)

- ⑧① こんや、うえののよみせへたなかさんといくつもりなんですが……。
⑧⑨ いま、そこのよみせですくってきたところなんですよ。

に〔二〕(2)

- ⑧⑤ ぼくは、にひきすくいました。
⑧⑤ にほんめのフィルムがおわったところです。

に(6)

- (1)⑧⑤ ごじに、いつものきっさてんであいましょう。
⑧④ じゃ、ごじに。
(2)⑧③ こんや、よみせをみにいきませんか。

(3)㉞ なににしましょうか。

㉞ なんにしましょう。

(4)㉞ じゃあ、さきにいています。

ね(17)

(1)① あーあ、どこかへいきたいですね。

④ すてきなゆかたですね。

⑥ とてもいいですね。

⑦ あー、きんぎょすくいですね。

⑨ あー、もうすこしですくえるところでしたね。

⑪ これ、なんでできているんですかね。

⑫ ええ、きれいなものですね。

⑬ なにかたべたいですね。

⑭ ビールがのみたいです。

⑮ おっ、きんぎょですね。

⑯ きれいなきんぎょですね。

⑰ まぐろとえびですね。

⑱ おもしろいみせが、たくさんありましたね。

㉑ ええ、またきたいですね。

(2)⑱ ㉑ そうですね。

㉒ そうですね、コーヒーをください。

の(11)

(1)④ どこ？

⑥ あー、きょうこさんがうえののよみせのはなしをしていました。

⑥ あー、きょうこさんがうえののよみせのはなしをしていました。

⑦ よみせのしゃしんをとりたいたいといっていましたよ。

⑪ こんや、うえののよみせへたなかさんといくつもりなんですけど……。

⑮ ごじに、いつものきっさてんであいましょう。

㉒ よみせのしゃしんをとるんでしょう。

- ⑤ にほんめのフィルムがおわったところです。
⑥ もうすこし、このあたりのしゃしんをとりたいんですが……。
⑧ いま、そのよみせですくってきたところなんですよ。
(2)⑨ わたしもこんなの、ほしいわ。

のど(1)

- ⑩ きょうは、とてものどがかわきました。

のむ〔飲む〕(3)

- (1)⑪ ビールがのみたいですね。
⑫ あー、ビールがのみたかった。
(2)⑬ じゃあ、ビールをのみながら、おすしをたべましょうか。

は(7)

- ⑭ ぼくは、にひきすくいました。
⑮ あれ、きょうごさんは？
⑯ これは、きでできているんですよ。
⑰ きょうごさん、しゃしんは、とりおわりましたか。
⑱ ええ、とりたいものは、だいたいとりおわったところです。
⑲ きょうは、とてものどがかわきました。
⑳ わたしは、まぐろとえび。

はい(5)

- ㉑ はい。
㉒ はい、さんびやくえん。
㉓ はい、いらっしやい。
㉔ はい、ビール、さんぼん。
㉕ はい、ビール、おまちどうさま。

ばかり(2)

- (1)⑲ さっき、やきそばをたべたばかりじゃあないですか。
(2)⑳ わたしも、いまきたばかりです。

はなし〔話〕(1)

⑧ あー、きょうこさんがうえののよみせのはなしをしていました。

ビール(6)

③① ビールがのみたいですね。

③② じゃあ、ビールをのみながら、おすしをたべましょうか。

③③ ビールをさんぼん。

③④ はい、ビール、さんぼん。

③⑤ はい、ビール、おまちどうさま。

③⑥ あー、ビールがのみたかった。

ひき〔匹〕(1)

⑤⑤ ぼくは、にひきすくいました。

ひと〔人〕(1)

④⑦ だれか、ほかにいきたがっているひと、いませんか。

ひゃく〔百〕(1)

(1)②② いっかい、ひゃくえんです。

フィルム(2)

③① ほら、そこでフィルムをかえているところです。

③⑤ にほんめのフィルムがおわったところです。

ふーん(1)

③⑧ ふーん、きでつくってあるんですか。

へ(2)

① あーあ、どこかへいきたいですね。

④① こんや、うえののよみせへたなかさんといくつもりなんですが……。

ほかに(1)

④⑦ だれか、ほかにいきたがっているひと、いませんか。

ぼく(2)

④⑨ ぼくたちも、やりませんか。

⑤⑤ ぼくは、にひきすくいました。

ほしい(4)

(1)④ わたしもこんなの、ほしいわ。

⑦ わたしも、ほしいわ。

(2)④ どうしてもほしくてかいました。

(3)⑥ いもうとが、これをほしがっていました。

ほら(2)

④ ほら、あのこ、あんなにしたがっていますよ。

⑥ ほら、そこでフィルムをかえているところです。

ほん〔本〕(3)

(1)⑤ にほんめのフィルムがおわったところです。

(2)⑥ ビールをさんぼん。

⑦ はい、ビール、さんぼん。

まあ(1)

⑫ まあ、わたしも、いこうとおもっていました。

まぐろ(2)

⑩ わたしは、まぐろとえび。

⑫ まぐろとえびですね。

ました(1)

⑥ ⑦ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ましょう(7)

⑧ じゃあ、でんわしてさそってみましょうよ。

⑬ ごじに、いつものきっさてんであいましょう。

⑳ なににしましょうか。

㉕ ええ、やりましょう。

㉙ じゃあ、ビールをのみながら、おすしをたべましょうか。

㊱ いきましょう。

㊴ なんにしましょう。

ます(2)

④ ⑦

ません(5)

- ③ こんや、よみせをみにいきませんか。
- ⑬ じゃあ、いっしょにいきませんか。
- ⑰ だれかほかに、いきたがっているひと、いませんか。
- ⑲ ぼくたちも、やりませんか。
- ⑳ じゃあ、すこしやすみませんか。

また(1)

- ㉕ ええ、またいきたいですね。

みせ〔店〕(1)

- ㉞ おもしろいみせが、たくさんありましたね。

みつける〔見つける〕(1)

- ㉟ このあいだ、デパートでみつけたんですよ。

みる〔見る〕(5)

- (1)③ こんや、よみせをみにいきませんか。
- (2)⑱ そうだ、かおりさんが、よみせをみたがっていましたよ。
- (3)⑧ じゃあ、でんわしてさそってみましょうよ。
- (4)㉒ かおりさんも、さそってみてください。

め〔目〕(1)

- ㉓ にほんめのフィルムがおわったところです。

も(9)

- ⑫ まあ、わたしも、いこうとおもっていました。
- ⑳ かおりさんも、さそってみてください。
- ㉓ きょうこさん、かおりさんもさそいましたか。
- ㉞ かおりさんも、とてもいきたがっていましたよ。
- ㉟ わたしも、いまきたばかりです。
- ㊱ ええ、わたしも。
- ㊲ わたしもこんなの、ほしいわ。
- ㊴ ぼくたちも、やりませんか。

⑦⑩ わたしも、ほしいわ。

もうすこし(2)

⑤⑨ あー、もうすこしですくえるところでしたね。

⑥⑧ もうすこし、このあたりのしゃしんをとりたいんですが……。

もちろん(1)

⑤⑦ ええ、もちろん。

もっと(1)

⑤⑥ もっと、すくうつもりですか。

もの(2)

⑦④ ええ、きれいなものですね。

⑦⑥ ええ、とりたいものは、だいたいとりおわったところです。

やあ(1)

②⑥ やあ。

やきそば(1)

⑦⑨ さっき、やきそばをたべたばかりじゃあないですか。

やすむ〔休む〕(1)

⑦⑦ じゃあ、すこしやすみませんか。

やる(2)

④⑨ ぼくたちも、やりませんか。

⑤⑩ ええ、やりましょう。

ゆかた〔浴衣〕(1)

④① すてきなゆかたですね。

よ(9)

⑤ うえのですよ。

⑦ よみせのしゃしんをとりたいといっていましたよ。

⑧ じゃあ、でんわしてさそってみましょうよ。

④⑨ そうだ、かおりさんが、よみせをみたがっていましたよ。

③① かおりさんも、とてもいきたがっていましたよ。

- ④③ このあいだ、デパートでみつけたんですよ。
- ④④ ほら、あのこ、あんなにしたがっていますよ。
- ⑦② これは、きでできているんですよ。
- ⑧⑨ いま、そのよみせですくってきたところなんですよ。

よみせ(7)

- ③ こんや、よみせをみにいきませんか。
- ⑥ あー、きょうこさんがうえののよみせのはなしをしていました。
- ⑦ よみせのしゃしんをとりたいといっていましたよ。
- ⑪ こんや、うえののよみせへたなかさんといくつもりなんですけど……。
- ⑬ そうだ、かおりさんが、よみせをみたがっていましたよ。
- ⑮ よみせのしゃしんをとるんでしょう。
- ⑲ いま、そのよみせですくってきたところなんですよ。

わ(2)

- ④② わたしもこんなの、ほしいわ。
- ⑦① わたしも、ほしいわ。

わあー(1)

- ⑧⑤ わあー、きれい。

わたし〔私〕(6)

- ⑫ まあ、わたしも、いこうとおもっていました。
- ⑮ わたしも、いまきたばかりです。
- ⑲ ええ、わたしも。
- ④② わたしもこんなの、ほしいわ。
- ⑦① わたしも、ほしいわ。
- ⑩① わたしは、まぐろとえび。

を(15)

- ③ こんや、よみせををみにいきませんか。
- ⑥ あー、きょうこさんがうえののよみせのはなしをしていました。
- ⑦ よみせのしゃしんをとりたいといっていましたよ。

- ①⑨ そうだ、かおりさんが、よみせをみたがっていましたよ。
- ②⑦ さっき、でんわをありがとう。
- ③⑩ さっき、でんわをしました。
- ④⑫ よみせのしゃしんをとるんでしょ。
- ⑤⑬ そうですね、コーヒーをください。
- ⑥⑭ ほら、そこでフィルムをかえているところです。
- ⑦⑮ もうすこし、このあたりのしゃしんをとりたいですが……。
- ⑧⑯ いもうとが、これをほしがってました。
- ⑨⑰ さっき、やきそばをたべたばかりじゃあないですか。
- ⑩⑱ じゃあ、ビールをのみながら、おすしをたべましょうか。
- ⑪⑲ じゃあ、ビールをのみながら、おすしをたべましょうか。
- ⑫⑳ ビールをさんぽん。

ん(6)

- (1)①② よみせのしゃしんをとるんでしょ。
- ③④ このあいだ、デパートでみつけたんですよ。
- ⑤⑥ これ、なんでできているんですかね。
- ⑦⑧ これは、きでできているんですよ。
- ⑨⑩ ふーん、きでつくってあるんですか。
- (2)⑪⑫ もうすこし、このあたりのしゃしんをとりたいんですよ……。

資料2. シナリオ全文

題 名 日本語教育映画
「よみせを みに いきたいです」
——意志・希望の表現——

企 画 国立国語研究所
制 作 日本シネセル株式会社
フィルム 16m/mE Kカラー・スタンダード
巻 数 全1巻
上映時間 5分
現 像 所 東映化学
録 音 読売スタジオ
完 成 昭和54年9月13日

制作スタッフ

制 作	静 永 純 一	制作担当	佐 藤 吉 彦
脚 本	前 田 直 明	演 出	前 田 直 明
演出助手	野 田 章	撮 影	赤 松 龍 彦
撮影助手	白 岩 卓	照 明	大 友 敏 法
照明助手	工 藤 和 雄	音 楽	吉 田 征 雄
録 音	小 川 正 城 (読売スタジオ)		
ネガ編集	斉 藤 康 一		

配 役

石 井	荒木 信一	田 中	金房 暎求
京 子	倉沢 暎子	香 (かおり)	姉崎 公美
すし屋の主人	大貫 一孝 (声)	喫茶店の女店員	土井 美加 (声)

9	<p>石井、電話をしている</p> <p>京子</p>	<p>⑪こんや、うえののよみせへたなかさんといくつもりなんです…。」</p> <p>京子「⑫まあ、わたしも、いこうとおもっていました。」</p> <p>石井「⑬じゃあ、いっしょにいきませんか。」</p> <p>京子「⑭ええ、ぜひ、いっしょにいきたいです。」</p>
10	<p>石井</p>	<p>石井「⑮ごじに、いつものきっさてんであいましょう。」</p> <p>京子「⑯ええ。」</p> <p>石井「⑰だれかほかに、いきたがっているひと、いませんか。」</p>
11	<p>京子</p>	<p>京子「⑱そうですね。</p> <p>⑲そうだ、かおりさんがよみせをみたがっていましたよ。」</p> <p>石井「⑳そうですか。」</p> <p>京子「㉑ええ。」</p> <p>石井「㉒かおりさんも、さそってみてください。」</p> <p>京子「㉓ええ。</p> <p>㉔じゃ、ごじに。」</p>
12	<p>京子、香に電話する</p> <p><喫茶店></p> <p>石井、田中、待っている</p> <p>京子、カメラバックを持ってあらわれる</p>	<p>京子「㉕どうも。」</p> <p>石井・田中「㉖やあ。」</p> <p>京子「㉗さっき、でんわをありがとう。」</p> <p>田中「㉘きょうごさん、かおりさんもさそいました</p>

		か。』
		京子「 ²⁹ ええ。
		³⁰ さっき、でんわをしました。
	田中, うなずく	³¹ かおりさんも、とてもいきたがってましたよ。』
13	京子・石井	石井「 ³² (京子に)よみせのしゃしんをとるんでしょう。』
		京子「 ³³ ええ、たくさんとるつもりです。』
14	香, 浴衣を着てあらわれる	香「 ³⁴ おそくなってごめんなさい。』
		京子「 ³⁵ わたしも、いまきたばかりです。』
		店員「 ³⁶ いらっしゃいませ。 ³⁷ なににしましょうか。』
		京子「 ³⁸ そうですね、コーヒーをください。』
		香「 ³⁹ ええ、わたしも。』
15	京子・香	店員「 ⁴⁰ はい。』
		京子「 ⁴¹ すてきなゆかたですね。 ⁴² わたしもこんなの、ほしいわ。』
		香「 ⁴³ このあいだ、デパートでみつけたんですよ。 ⁴⁴ どうしてもほしくてかいました。』
		京子「 ⁴⁵ そうですか。 ⁴⁶ とてもいいですね。』
16	四人・店員	
	店員, コーヒーを持って来る	
17	<金魚すくいの店の前> 女の子と母親	

	<p>三人 よみせが、ならんでいる その手前に金魚すくいの店が ある 京子は、写真をとっている 三人、入って来る 一人の子が、金魚の方を指さ して、金魚すくいをしたがっ ている</p>	
18	<p>女の子</p>	<p>田中「④あー、きんぎょすく いですね。」 香「⑤ほら、あのこ、 あんなにしがたってい ますよ。」</p>
19	<p>三人</p>	<p>田中「⑥ぼくたちも、やりま せんか。」 香「⑦ええ、やりましょう。」 香「⑧いくらですか。」 金魚すくい屋「⑨いっかい、 ひやくえんです。」 香「⑩はい、さんびやくえん。」</p>
20	<p>三人、金魚すくいを買い、始 める 三人 香、なかなかうまくすくえな い 石井、一匹すくう 香の紙は、やぶれてしまう</p>	<p>香「⑪あーあ、ざんねん。」 石井「⑫ぼくは、にひきすく いました。」</p>
21	<p>(田中のやぶれかけた金魚す くいを見て) 田中の手元 田中、金魚をボールに移そう とする 紙はやぶれて金魚は逃げだす</p>	<p>香「⑬もっと、すくうつもり ですか。」 田中「⑭ええ、もちろん。」 香「⑮そおっと、そおっと、 しずかに。」 香「⑯あー、もうすこしです くえるところでしたね。」</p>

- 22 金魚の入っているビニール袋
を持って三人立ちあがる
- 23 京子, フィルムを手ばやく抜
きとっている
- 24 京子・香, 来る
- 25 香・京子
ケースに番号をふる

(カメラバックを肩にかけな
がら)
- 26 京子, 写真をとり始める
<やきそば屋>
石井, 田中, やきそばを食べ
ている
待っている香
- 27 風鈴店
- 28 べっこう店
- 29 ガラス細工店
- 30 <水中花を売る店の前>
水中花,
- 31 京子, 写真をとっていると
ころへ三人あらわれる
- 二人, 買っている
- 32 水中花
田中, 乾いた水中花を見て
- 33 石井・田中
- 田中「②⑩あれ, きょうこさん
は?」
石井「②⑪ほら, そこでフィル
ムをかえているところ
です。」
- 香「②⑫どうです?
②⑬だいぶどれましたか。」
京子「②⑭ええ。
②⑮にほんめのフィルム
がおわったところです。
②⑯もうすこし, このあ
たりのしゃじんをとり
たいんですが……。」
石井「②⑰じゃあ, さきにいつ
ています。」
- 香「②⑱わあー, きれい。」
京子「②⑲いもうとが, これを
ほしがっていました。」
香「②⑳わたしも, ほしいわ。」
- 田中「②㉑これ, なんできて
いるんですかね。」
石井「②㉒これは, きできて

34	水中花	<p>いるんですよ。』</p> <p>田中「㉓ふーん、 きでつくってあるんで すか。」</p>
35	石井・田中 京子・香	<p>石井「㉔ええ、きれいなもの ですね。」</p> <p>田中「㉕きょうこさん、しゃ しんは、とりおわりま したか。」</p> <p>京子「㉖ええ、とりたいもの は、だいたいとりおわ ったところです。</p> <p>石井「㉗じゃあ、すこしやす みませんか。」</p> <p>田中「㉘なにかたべたいです ね。」</p> <p>香「㉙さっき、やきそばをた べたばかりじゃあないで すか。」</p> <p>京子「㉚すこし、つかれまし た。 ㉛ビールがのみたいで すね。」</p> <p>田中「㉜じゃあ、ビールをの みながら、おすしをた べましょうか。」</p> <p>京子「㉝いきましよう。」</p> <p>石井「㉞ええ。」</p>
36	<すし屋> 四人、すし屋に入る	<p>店主「㉟はい、いらっしゃい。」</p> <p>石井「㊱ビールをさんぼん。」</p> <p>店主「㊲はい、ビールさんぼ ん。」</p>
37	店主、ビニール袋の金魚を見 る 金魚	<p>店主「㊳おつ、きんぎょですね。」</p>

38 田中・香

田中「㉘いま、そのよみせ
ですくってきたところ
なんですよ。」

39 田中・店主

店主「㉙そうですか。

㉚きれいなきんぎょで
すね。」

店員、ビールを持ってくる

店主「㉛はい、ビール、おま
ちどおさま。」

40 石井・京子

京子・香

石井、田中、ビールをつぐ

京子「㉜じゃ。」

石井・田中「㉝どうも。」

京子「㉞あー、ビールがの
み
たかった。

㉟きょうは、ともの
ど
がかわきました。」

四人乾杯して飲む

41 店主・石井・京子

四人

香「㊱ええ。」

店主「㊲なんにしましょう。」

石井「㊳うーん、かおりさん、
なにがたべたいですか。」

香「㊴そうですね。

㊵わたしは、まぐろと
えび。」

店主「㊶まぐろとえびですね。」

香「㊷ええ。」

田中「㊸おもしろいみせが、
た
くさんありましたね。」

香「㊹ええ、またきたいです
ね。」

石井「㊺ええ。」

42 <夜店>

よみせは、まだにぎわってい
る

43 企画・制作タイトル

企画	国立国語研究所
制作	日本シネセル株式会 社

日本語教育映画解説18

よみせをみにいきたいです

——意志・希望の表現——

昭和61年3月

国立国語研究所

〒115 東京都北区西が丘3-9-14

電話東京(900)3111(代表)

印刷所 文唱堂印刷株式会社

電話(851)0111(代)